

資料

碁母潜研究基礎資料稿

川口喜治

盛唐の詩人・碁母潜は、本稿作成者が従来研究対象としてきた李頎と深い交遊があり、さらには張九齡、王維、高適などの重要な詩人との関係もあった。また現在伝わる二十六首の詩歌のうち、六首が『河嶽英靈集』に採られており、同時代的な評価もそれなりに高かったと判断される。一方で、本邦では碁母潜にかかる専門的な研究は進んでいないように見受けられる。そこで碁母潜研究の一步として、本稿を作成することとした。

なお、引用した資料の中には、碁母潜を碁「母」潜と表記する資料もあるが、碁母潜に統一した。

凡例

- (1) 本稿は、盛唐の詩人・碁母潜の研究に関する基礎資料である。
- (2) 本稿は、次の項目に分類した。I「本稿作成に用いた主要な文献・ウェブサイト」、II「碁母潜の詩」、III「碁母潜の文」、IV「碁母潜の伝記資料」、V「碁母潜の交遊資料」、VI「著録」、VII「詩話類」、VIII「地理書」、IX「碁母潜詩へ和韻詩(次韻詩)」、X「碁母潜研究文献目録」である。
- (3) 各項目の凡例等は、丸数字で示した。
- (4) 本稿で文献の箇所を示した数字は、最初の引用資料(II-(1))を例にすると、「1368」、「3-643」は、1368頁、第3冊の643頁を示す。また「13a」は、丁数と表裏を示す。
- (5) 資料が複数頁にまたがる時は、原則として、最初の頁を示した。
- (6) 本稿の文献の書誌情報は、必要と判断されるものとした。
- (7) 文献の総巻数を示した場合は、『孟浩然集四卷』のように二重カギ括弧内に入れた。
- (8) 当該文献が排印本、点校本である場合は、特に断らず、そのことを示していない。
- (9) 国立公文書館、Harvard-Yenching Library、中国国家図書館の文献は、すべてオンライン・デジタルアーカイブである。公文書館、Harvard-Yenchingの書誌情報は、各機関のウェブサイトの情報による。中国国家図書館のものは、ウェブサイトに加えて、必要に応じて『北京圖書館古籍善本書目』(全五冊)(書目文獻出版社、1987年序)を用いた。またウェブサイトの「善本書号」等と『書目』の頁数とを付した。なお同図書館ウェブサイトには同一あるいは類似と思しき版の書籍が複数見られる場合があるが、ここでは本稿作成者が確認したものを示している。

各ウェブサイトの検索ページのURLを示す。

国立公文書館：<https://www.digital.archives.go.jp/>

Harvard-Yenching Library：<https://library.harvard.edu/>

中国国家図書館：<http://read.nlc.cn/thematDataSearch/toGujiIndex>

- (10) 本稿に引いた文献のうち、書誌情報をここで示すのが便宜的であると判断したものを掲げる。

(唐)殷璠『河嶽英靈集』：四部叢刊正編(全百冊)93・嘉興沈氏藏明刊本影印。臺灣商務印書館、1979年

* 以下、「四部叢刊」は、同續編を除き、上記正編を指す。

また『和刻本漢詩集成 總集篇 第一輯』(汲古書院、1978年)の『河嶽英靈集』(文政七年(1824)昌平坂學問所刊本影印)の所在情報も示した。

傅璇琮『唐人選唐詩新編』：陝西人民教育出版社、1996年。適宜、傅氏『新編』と略称した。

王克讓『河嶽英靈集注』：巴蜀書社、2006年。適宜、王氏『集注』と略称した。

(宋)李昉等『文苑英華』(全六冊)：北京圖書館所藏宋刊殘本・明刊本影印。中華書局、1966年

(宋)計有功『唐詩紀事』：四部叢刊99・明嘉靖間(1522~1566)錢塘洪氏刊本影印

王仲鏞『唐詩紀事校箋』(全八冊)：中華書局、2007年。適宜、王氏『校箋』と略称した。

(宋)洪邁『萬首唐人絕句』:中国国家図書館・明嘉靖十九年(1540)陳慶學德星堂刻本A01803・2784

* 国立公文書館は、内閣文庫・明德星堂刊本の七言絶句部分を所蔵しているようである。

(宋)洪邁／(明)趙宦光校訂・黃習遠補訂『宋洪魏公進萬首唐人絶句』:国立公文書館(内閣文庫)・明萬曆三五年(1607)序刊本。以下、趙校『萬首唐人絶句』と称する。また、Harvard-Yenching Library・明萬曆丙午(三四年(1606))本がある。

霍松林『万首唐人絶句校注集評』(全三冊):山西人民出版社、1991年。適宜、霍氏『集評』と略称した。

『唐五十家詩集』(全八冊):明活字本影印。上海古籍出版社、1981年

* 陳尚君『明銅活字本《唐五十家詩集》印行者考』(陳氏『唐代文学叢考』、中国社会科学出版社、1997年)によれば、本書の刊行者は、明の蘇州呉県の人、徐縉(卒年、嘉靖二四年(1545)頃)。正徳、嘉靖間の刊行。

(明)張遜業『十二家唐詩』:中国国家図書館・明嘉靖(1522～1566)黃埶刻本09046・2665。

(明)楊一統『唐十二家詩』:国立公文書館(内閣文庫)・明萬曆十二年(1584)序刊本。中国国家図書館・明萬曆十二年楊一統刻本19308・2666(名称は、『唐十二家名詩』)がある。Harvard-Yenching Libraryは、明萬曆十二年刻本の『高適集一卷』が確認できる。

(明)許自昌『前唐十二家詩』:国立公文書館(内閣文庫)・明萬曆三一年(1603)序刊本。また、Harvard-Yenching Library・1603年? 菲玉軒本、中国国家図書館・明萬曆三一年菲玉軒刻本00314・2663がある。

(明)胡震亨『唐音統籤』(全九冊):北京故宫博物院圖書館藏范希仁抄補本影印。上海古籍出版社、2003年
(清)錢謙益・季振宜『全唐詩稿本』(全七一冊):臺灣國立中央圖書館珍藏清稿本影印。聯經出版事業公司、1979年

* 詩型などで見せ消ちと思われる場合も、判読可能な場合は、特に断らずにそれを記載した。

(清)彭定求等『全唐詩』(全二五冊):中華書局、1960年

陳貽焮『増訂注釈全唐詩』(全五冊):文化芸術出版社、2001年。適宜、『増全』と略称した。

袁閻坤『全唐詩広選新注集評』(全十卷):遼寧人民出版社、1994年。適宜、『全広』と略称した。

(清)董誥等『全唐文』(全十一冊):嘉慶十九年(1814)内府刊本影印。中華書局、1983年

『和刻本漢詩集成 唐詩 第一輯』:汲古書院、1975年

(11) (10)以外の文献の書誌情報については、その文献の初出箇所を示した。また「～参照」として、初出箇所の書誌情報を参照できるようにした場合もある。

(12) ●印を付けて示したものは、その文献の書誌にかかる情報である。

(13) ○印を付けて示したものは、関連文献、参考文献である。

(14) II「綦母潛の詩」、V「綦母潛の交遊資料」においては、各資料の諸本を掲げたが、現時点で確認したものを列挙しただけであり、諸本の系統など書誌学的な注意はしていない。またもとより、確認可能なものを全て掲げているわけではない。結果として、綦母潛以外の詩人においては、かなり煩雑なものとなってしまったが、何かに資することがあれば幸いである。なお諸本に四部叢刊本があるときは、それをはじめに示した。

I 本稿作成に用いた主要な文献・ウェブサイト

(1) 平岡武夫・市原亨吉・今井清『唐代の散文作品』:京都大學人文科學研究所、1960年

(2) 平岡武夫・市原亨吉・今井清『唐代の詩篇 第一冊』・『同 第二冊』:京都大學人文科學研究所、1964年・1965年

(3) 傅璇琮等『唐五代人物傳記資料綜合索引』:中華書局、1982年

(4) 周祖譔『中国文学家大辞典 唐五代卷』:中華書局、1992年

(5) 方積六・呉冬秀『唐五代五十二種筆記小説人名索引』:中華書局、1992年

(6) 呉汝煜『唐五代人交往詩索引』:上海古籍出版社、1993年

- (7)《中華大典》工作委員會等『中華大典・文學典 隋唐五代文學分典』(全四冊):江蘇古籍出版社、2000年
 (8)凡例(9)で掲げたほか、漢リポ・Kanseki Repository(<https://www.kanripo.org>)、中國哲學書電子化計劃(<https://ctext.org/zh>)、そのほか各種中国古典籍にかかるウェブサイト
 (9)CNKI・中国知網(<https://chn.oversea.cnki.net/index/>)、そのほか各種研究文献データベースのウェブサイト

II 慕母潜の詩

- ①以下に掲げる慕母潜の作品の引用は、『全唐詩』(卷一三五)第4冊による。頁数を詩題のあとの括弧内に示した。
 ②慕母潜以外の詩人の作品の引用も、『全唐詩』による。巻数、冊数、頁数を示した。
 ③慕母潜詩の詩題の前、慕母潜詩以外は詩人名の前に、I「主要文献」(2)『唐代的詩篇 第一冊』『同 第二冊』の作品番号を示した。
 ④『唐代的詩篇』の情報と本稿作成者が確認したものとを【諸本】として示した。諸本の詩題・本文は省略した。
 ⑤諸本のあとに、注釈書を【注釈】として示した。
 ⑥重出詩については、佟培基『全唐詩重出誤收考』(陝西人民出版社、1996年)を参照した。
 ⑦この項目の詩題に見える人名については、陶敏『全唐詩人名彙考』(遼海出版社、2006年)がある。

(1)06416「冬夜寓居寄儲太祝(一作薛據詩)」(1368)

自爲洛陽客、夫子吾知音。盡(一作愛)義能下士、時人無此心。奈何離居夜、巢鳥悲(一作飛)空林。愁坐至月上、復聞南鄰砧。

【諸本】

『唐詩紀事』卷二十(13a)(99-169)

○王仲鏞『唐詩紀事校箋』3-643

『唐音統籤』卷一三九(2a)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(1a)(18-6126)

* 版心に「詩紀」とある。Harvard-Yenching Library、中国国家図書館15441・2789の(明)黃河水(黃德水)・吳琯等『唐詩紀』(明萬曆乙酉・十三年(1585)本)を見ると、『唐詩紀』であると判断される。また例えば、『全唐詩稿本』(9-2804)には「唐詩紀五十四」と見える。『全唐詩稿本』第一冊の劉兆祐「御定全唐詩與錢謙益季振宜通輯唐詩稿本關係探微」(16頁)「諸家詩、卷帙較多的、大抵用別集、間用詩紀」とある。以下、『唐詩紀』の名称も示す。

【注釈】

陳貽焮『增訂注釈全唐詩』1-995

袁閻坤『全唐詩広選新注集評』2-328

(1)-2・13297薛據「冬夜寓居寄儲太祝(一作慕母潜詩)」(卷二五三・8-2852)

自爲洛陽客、夫子吾知音。愛義能下士、時人無此心。奈何離居夜、巢鳥飛空林。愁坐至月上、復聞南鄰砧。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷中(43a)(93-30)／和刻本・卷中(8a)(266)

○傅璇琮『唐人選唐詩新編』167

○王克讓『河嶽英靈集注』239

『唐音統籤』卷八二九(2a)(8-211)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(7a)(22-7627)*詩題・本文ともに、見せ消ち。

『全唐詩稿本』(22-7633)*筆写

【注釈】

『增全』2-584→綦母潛詩

(2) 06417「春泛若耶溪」(1368)

幽意無斷絕、此去隨所偶。晚(一作好)風吹行舟、花路入溪口。際夜轉西壑、隔山望南斗。潭煙飛溶溶、林月低向後。生事且瀾漫、願爲持竿叟。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷中(45b)(93-31)／和刻本·卷中(10a)(267)

○傅氏『新編』170

○王氏『集注』252

(唐)韋莊『又玄集』卷上(20b)

●『和刻本漢詩集成 總集篇 第一輯』393·享和三年(1803)昌平坂學問所刊本影印

○傅氏『新編』614

『文苑英華』卷一六六(6a)·詩十六·池部八·游泛(2-796)

(宋)姚鉉『重校正唐文粹』卷十六上(15a)·詩壬·古調歌篇五·勝槩

●四部叢刊93-130·明嘉靖(1522~1566)刊本影印。以下、『唐文粹』とする。

『唐詩紀事』卷二十(12a)(99-168)

○王氏『校箋』3-642

『唐音統籤』卷一三九(1a)(2-339)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(1b)(18-6127)

【注釈】

『增全』1-995

『全広』2-328

(清)孫洙『唐詩三百首』卷一·五言古詩((清)陳媛俊『補注』13。中華書局、1959年)

(3) 06418「題鶴林寺」(1368)

道林(一作門)隱形勝、向背臨層霄(一作法橋)。松覆山殿冷、花藏谿路遙。珊珊寶幡挂、焰焰明燈燒。遲日半空谷、春風連上潮。少憑(一作適)水木興、暫令身心調。願謝攜手客、茲山禪誦(一作侶)饒。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷中(45b)(93-31)／和刻本·卷中(10b)(267)

○傅氏『新編』171

○王氏『集注』254

『文苑英華』卷二三四(7a)·詩八四·寺院二(2-1181)

『唐詩紀事』卷二十(13b)(99-169)

○王氏『校箋』3-643

『唐音統籤』卷一三九(1b)(2-339)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(1b)(18-6127)

【注釈】

『增全』1-995

『全広』2-329

(3)-2·13300薛據「題鶴林寺」(卷二五三·8-2853)

道門隱形勝、向背臨法橋。松覆山殿冷、花藏溪路遙。珊珊寶幡挂、燄燄明燈燒。遲日半空谷、春風連上潮。少憑水木興、暫忝身心調。願謝攜手客、茲山禪侶饒。

【諸本】

『唐文粹』卷十七上(2b)·詩十一·古調歌篇七·寺觀(93-135)

『唐音統籤』卷八二九(3a)(8-212)

『全唐詩稿本』(22-7633)*筆写

【注釈】

『増全』2-585→慕母潛詩

(4) 06419「題棲霞寺」(1368)

南山勢迴合、靈境依此住。殿轉雲崖陰、僧探石泉度。龍蛇爭翕習、神鬼皆密護。萬壑奔道場、羣峯向雙樹。天花飛不著、水月白成路。今日觀身我(一作我身)、歸心復何處。

【諸本】

『文苑英華』卷二三四(7a)・詩八四・寺院二(2-1181)

『唐音統籤』卷一三九(1b)(2-339)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(2a)(18-6128)

【注釈】

『増全』1-995

(5) 06420「送儲十二還莊城」(1369)

西坂何繚繞、青林問子家。天寒噪野雀、日晚度城鴉。寂歷道傍樹、曠曠原上霞。茲情不可說、長恨隱淪賒。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷中(46a)(93-32)／和刻本・卷中(11a)(268)

○傅氏『新編』171

○王氏『集注』257

『文苑英華』卷二六九(10a)・詩一一九・送行四(2-1361)

『唐音統籤』卷一三九(5a)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(2a)(18-6128)

【注釈】

『増全』1-995

『全広』2-329

(6) 06421「送章彝下第」(1369)

長安渭(一作灞)橋路、行客別時心。獻賦溫泉畢、無媒魏闕深。黃鶯啼就馬、白日暗歸林。三十名未立、君還惜寸陰。

【諸本】

『文苑英華』卷二六九(9b)・詩一一九・送行四(2-1361)

『唐音統籤』卷一三九(4b)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(2b)(18-6129)

【注釈】

『増全』1-996

『全広』2-330

(宋)周弼『三體詩』五言律詩・前虛後實(村上哲見『三體詩(四)』113。朝日新聞社、1978年)

(7) 06422「送崔員外黔中監選」(1369)

持衡出帝畿、星指夜郎飛。神女雲迎馬、荊門雨溼衣。聽猿收淚罷、繫雁待書稀。蠻貊雖殊俗、知君肝膽微。

【諸本】

『文苑英華』卷二六九(9b)・詩一一九・送行四(2-1361)

『唐音統籤』卷一三九(4a)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(2b)(18-6129)

【注釈】

『増全』1-996

(8) 06423「送賈恆明府兼寄溫張二司戶」(1369)

越客新安別、秦人舊國情。舟乘晚風便、月帶上潮平。花路西施石、雲峯句踐城。明州報兩掾、相憶二毛生。

【諸本】

『文苑英華』卷二六九(9b)・詩一一九・送行四(2-1361)

『唐音統籤』卷一三九(4a)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(3a)(18-6130)

【注釈】

『増全』1-996

(9) 06424「送宋秀才」(1369)

冠古積榮盛、當時數戟門。舊交丞相子、繼世五侯孫。長劍倚天外、短書盈萬言。秋風一送別、江上黯消魂。

【諸本】

『文苑英華』卷二六九(9b)・詩一一九・送行四(2-1361)

『唐音統籤』卷一三九(5a)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(3a)(18-6130)

【注釈】

『増全』1-996

(10) 06425「送平判官入秦(一作盧象詩)」(1370)

謫遠自安命、三年已忘歸。同聲(一作心)願執手、驛騎到門扉。云是帝鄉去、軍書謁紫微。曾爲金馬客、向日淚沾衣。

【諸本】

『文苑英華』卷二六九(10a)・詩一一九・送行四(2-1361)

『唐音統籤』卷一三九(4a)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(3a)(18-6130)

【注釈】

『増全』1-996

*『全唐詩』中に、盧象詩として見当たらない。

(11) 06426「送鄭務拜伯父」(1370)

名公作逐臣、驅馬拂行塵。舊國問郎子、勞歌過郢人。一川花送客、二月柳宜春。奉料竹林興、寬懷此別晨。

【諸本】

『文苑英華』卷二八四(2b)・詩一三四・送行十九・送人省覲(2-1442)

『唐音統籤』卷一三九(4b)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(3b)(18-6131)

【注釈】

『増全』1-996

(12) 06427「題招隱寺絢公房」(1370)

開士度人久、空巖(一作山)花霧深。徒知燕坐處、不見有爲心。蘭若門對壑、田家路隔林。還言證(一作澄)法性、歸去比黃金。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷中(45b)(93-31)／和刻本・卷中(10a)(267)

○傅氏『新編』170

○王氏『集注』253

『文苑英華』卷二三四(7b)・詩八四・寺院二(2-1181)

『唐音統籤』卷一三九(3b)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(3b)(18-6131)

【注釈】

『増全』1-997

(13) 06428「宿太平觀」(1370)

夕到玉京寢、宵冥雲漢低。魂交仙室蝶、曙聽羽人雞。滴瀝花上露、清冷松下谿。明當訪真隱、揮手入無倪。

【諸本】

『文苑英華』卷二二六(5a)・詩七六・道門二・宮觀(2-1134)

『唐音統籤』卷一三九(2b)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(4a)(18-6132)

【注釈】

『増全』1-997

(14) 06429「題靈隱寺山頂禪院」(1370)

招提此山頂、下界不相聞。塔影挂清漢、鐘聲和白雲。觀空靜室掩、行道衆香焚。且駐西來駕、人天日未曛。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷中(46a)(93-32)／和刻本・卷中(10b)(267)

○傅氏『新編』171

○王氏『集注』256

『文苑英華』卷二三四(7b)・詩八四・寺院二(2-1181)

『唐詩紀事』卷二十(12b)(99-168)

○王氏『校箋』3-642

『唐音統籤』卷一三九(3b)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(4a)(18-6132)

【注釈】

『増全』1-997

『全広』2-330

(15) 06430「若耶溪逢孔九」(1370)

相逢此溪曲、勝託在煙霞。潭影竹間動、巖陰簷外(一作際)斜。人言(一作生)上皇代、犬吠武陵家。借問淹留日、春風滿(一作深歸)若耶。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷中(46b)(93-32)／和刻本・卷中(11a)(268)

○傅氏『新編』171

○王氏『集注』258

『文苑英華』卷一六六(9b)・詩十六・池部八・雜題(2-797)

『文苑英華』卷二一八(1b)・詩六八・人事五・逢遇(此詩已見一百六十六卷)(2-1087) * 詩題のみ

『唐詩紀事』卷二十(13a)(99-169)

○王氏『校箋』3-642

『唐音統籤』卷一三九(2a)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(4b)(18-6133)

【注釈】

『増全』1-997

『全広』2-330

(16) 06431「宿龍興寺」(1371)

香刹夜忘歸、松青古殿扉。燈明方丈室、珠繫比丘衣。白日(一作月)傳心靜、青蓮喻法微。天花落不盡、處處鳥銜飛。

【諸本】

『文苑英華』卷二三四(7b)・詩八四・寺院二(2-1181)

『唐音統籤』卷一三九(3a)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(4b)(18-6133)

【注釈】

『増全』1-997

『全広』2-331

『唐詩選』卷三・五言律詩

(17) 06432「題沈東美員外山池」(1371)

仙郎偏好道、鑿沼象瀛洲。魚樂隨情性、船行任去留。秦人辨雞犬、堯日識巢由。歸客衡門外、仍憐返景幽。

【諸本】

『文苑英華』卷一六五(2a)・詩十五・池部七・池(2-788) * 作者名、缺。

『唐音統籤』卷一三九(2a)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(5a)(18-6134)

【注釈】

『増全』1-997

『全広』2-331

(18) 06433「茅山洞口」(1371)

華陽仙洞口、半嶺拂雲看。窈窕穿苔壁(一作陸)、差池對石壇。方隨地脈轉、稍覺水晶寒。未果變金骨、歸來茲路難。

【諸本】

『文苑英華』卷二二六(5a)・詩七六・道門二・宮觀(2-1134)

『唐音統籤』卷一三九(2b)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(5a)(18-6134)

【注釈】

『増全』1-998

(19) 06434「過方尊師院」(1371)

羽客北山尋、草堂松徑深。養神宗示法、得道不知心。洞戶逢雙履、寥天有一琴(一作禽)。更登玄圃上、仍種杏成林。

【諸本】

『文苑英華』卷二二六(5a)・詩七六・道門二・宮觀(2-1134)

『唐音統籤』卷一三九(3a)(2-340)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(5a)(18-6134)

【注釈】

『増全』1-998

(20) 06435「經陸補闕隱居」(1371)

不敢要君徵亦起、致君全得似唐虞。讜言昨歎離天聽、新象今聞入縣圖。琴鎖壞窗風自響、鶴歸喬木隱難呼。學書弟子何人在、點檢猶存諫草無。

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(5b)(18-6135)

【注釈】

『増全』1-998

(20) -2-36009方干「過姚監故居(一作經陸補闕故居)」(『全唐詩』卷六五二・19-7485)

不敢要君徵亦起、致君全得似唐虞。讜言昨歎離天聽、新塚今聞入縣圖。琴鎖壞窗風自觸、鶴歸喬木月(一作日)難呼。學書(一作詩)弟子何人在、檢點猶逢諫草無。

【諸本】

『元英先生詩集十卷』卷九(丁数なし)

●中国国家図書館・明抄本11160・2077

(清)席啓寓『唐詩百名家全集』『元英先生詩集十卷』卷九(1b)

●Harvard-Yenching Library・清康熙戊子(四七年(1708))東山席氏琴川書屋本

『文苑英華』卷三〇七(9a)・詩一五七・悲悼七・第宅(2-1575)

『唐音統籤』卷六〇六(9b)・七言律詩三(6-321)

『全唐詩稿本』『唐方玄英先生詩集』七言律詩(59-20838)

【注釈】

『増全』4-822→綦母潛詩

(21) 06436「登天竺寺」(1372)

郡有化城最、西窮疊嶂深。松門當澗口、石路在峯心。幽見夕陽霽、高逢暮雨陰。佛身瞻紺髮、寶地踐黃金。雲向竹谿盡、月從花洞臨。因物成眞悟、遺世在茲(一作孤)岑。

【諸本】

『文苑英華』卷二三四(7a)・詩八四・寺院二(2-1181)

『唐音統籤』卷一三九(5a)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(5b)(18-6135)

【注釈】

『増全』1-998

(22) 06437「滿公房」(1372)

世界蓮花藏、行人香火緣。燈王照不盡、中夜寂相傳。

【諸本】

『萬首唐人絕句』五言・卷十九(5a)

趙校『萬首唐人絕句』卷三(12b)・五言第三・盛唐後

○霍松林『萬首唐人絕句校註集評』上-306

『唐音統籤』卷一三九(5b)(2-341)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(6a)(18-6136)

【注釈】

『増全』1-999

(23) 06438「過融上人蘭若(一作孟浩然詩)」(1372)

山頭禪室挂僧衣、窗外無人溪(一作水。又作越)鳥飛。黃昏半在下山路、卻聽鐘(一作泉。又作松)聲連(一作戀)翠微。

【諸本】

『文苑英華』卷二三四(7b)・詩八四・寺院二(2-1181)

『唐詩紀事』卷二十(13a)(99-169)*詩題「過禪居」

○王氏『校箋』3-643

『萬首唐人絕句』七言・卷二六(14a)

趙校『萬首唐人絕句』卷十二(25a)・七言二・盛唐前

○霍氏『集評』中-125

『唐音統籤』卷一三九(6a)(2-342)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(6a)(18-6136)

【注釈】

『増全』1-999

(23)-2-07864孟浩然「過融上人蘭若」(卷一六〇・5-1669)

山頭(一作閒)禪室挂僧衣、窗外無人水(一作溪)鳥飛。黃昏半在下山路、卻聽泉聲戀翠微。

【諸本】

『孟浩然集四卷』卷四(15a)・七言絕句

- 四部叢刊33-32・江南圖書館藏明刊本影印
『孟浩然詩集三卷』卷下(9a)・詩
- 宋蜀刻本唐人集叢刊・北京圖書館所藏宋蜀刻本影印(上海古籍出版社、1994年)・89頁
『孟浩然集四卷』卷四(15a)・七言絕句
- 中国国家図書館・明嘉靖十六年(1537)屠倬、陳鳳等刻王孟集本10200・2015
『孟浩然詩集三卷・補遺一卷・拾遺一卷・襄陽外編一卷』卷下(12a)
- 中国国家図書館・顧道洪輯・明萬曆(1573~1620)刻本10434・2014
『孟浩然詩集二卷』卷下(43a)・七言絕句
- 中国国家図書館・明凌蒙初刻套印本09027・2015
『孟浩然集三卷』卷三(16b)
- 湖北先生遺書本・景明活字本* 未見(『唐代の詩篇』による情報)
『孟浩然詩集三卷』卷上(15b)・遊覽
- 『和刻本漢詩集成 唐詩 第一輯』167・元祿三年(1690)玉樹堂唐本屋吉左衛門刊本影印
『孟浩然詩集一卷』(81b)・七言絕句
- 『同上』154・元文四年(1738)京都志長軒長代源七刊本影印
『唐五十家詩集』『孟浩然集三卷』卷三(16b)・七言絕句(3-1304)
- 『十二家唐詩』『孟浩然集二卷』卷下(45b)・七言絕句
- 『唐十二家詩』『孟浩然集一卷』(51b)・七言絕句
- 『前唐十二家詩』『孟浩然集二卷』卷下(45a)・七言絕句
- (明)毛晉『五唐人詩集』『孟襄陽集三卷』卷一(16a)・遊覽
- 国立公文書館(内閣文庫)・明汲古閣刊本、Harvard-Yenching Library・民國十二~三八年(1923~1949)上海醫學書局・汲古閣刊本影印(『五唐人集』)、中国国家図書館・明末(1621~1644)毛氏汲古閣刻本16931・2668。『五唐人詩集』の名称は中国国家図書館による。公文書館は、五詩集の合刊としていないようである。
- 『河嶽英靈集』卷中(47a)(93-32) / 和刻本・卷中(11b)(268)
 - 傅氏『新編』172
 - 王氏『集注』262
- 『萬首唐人絕句』七言・卷七(6a)
- 『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷二十(18b)・七言絕句(20-7098)
 - * Harvard本・中国国家図書館本『唐詩紀』には見られない。
- 【注釈】
- 『増全』1-1274→綦母潛詩
- 『全広』2-297
- 游信利『孟浩然集箋注』291(臺灣學生書局、1979年)
- 曹永東・王沛霖『孟浩然詩集箋注』350(天津古籍出版社、1990年)
- 趙桂藩『孟浩然集注』362(旅游教育出版社、1991年)
- 楊軍『新譯孟浩然詩集』346(三民書局、2012年)
- 佟培基『孟浩然詩集箋注(增訂本)』436(上海古籍出版社、2013年)
- 徐鵬『孟浩然集校注』294(人民文學出版社、2014年)
- 李景白『孟浩然詩集校注』440(中華書局、2018年)
- 李翔翥『孟浩然詩全集』367(崇文書局、2022年)
- 公庄博『孟浩然詩全訳注』(全二冊)下-238(ユニプラン、2016年)
- 二宮美那子・好川聡『王維・孟浩然』323(明治書院、2020年)
- * 川口喜治「孟浩然詩注作品対照表(増補版)」番号258(『1999年度中唐文学会報』)

(24) 06439「早發上東門」(1372)

十五能行(一作文)西入秦、三十無家作路人。時命不將明主合、布衣空染(一作惹)洛陽塵。

【諸本】

『文苑英華』卷二九一(9a)・詩一四一・行邁三(2-1487)

『唐詩紀事』卷三十(12a)(99-168)

○王氏『校箋』2-642

『萬首唐人絕句』七言・卷二六(14b)

『唐音統籤』卷一三九(5b)(2-341)

『全唐詩稿本』(18-6137)

【注釈】

『増全』1-999

『全広』2-332

(24)-2・13306薛據「早發上東門(一作綦母潛詩。題作落第後口號)」(卷二五三・8-2854)

十五能文西入秦、三十無家作路人。時命不將明主合、布(一作素)衣空惹(一作染)洛陽塵。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷中(43a)(93-30)／和刻本・卷中(7b)(266) * 詩題「落第後口號」

○傅氏『新編』167

○王氏『集注』237

趙校『萬首唐人絕句』卷十二(25a)・七言二・盛唐前

○霍氏『集評』中-126

『唐音統籤』卷八二九(4b)(8-212)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四七(9b)(22-7632) * 詩題・本文ともに、見せ消ち。

【注釈】

『増全』2-586→綦母潛詩

(25) 06440「祇園寺」(1372)

寶坊求往跡、神理駐沿洄。雁塔酬前願、王身更後來。加持將暝合、朗悟豁然開。兩世分明見、餘生復幾哉。

【諸本】

『唐音統籤』卷一三九(3a)(2-340)

【注釈】

『増全』1-999

(26) 06441「送集賢學士伊闕史少府放歸江東覲省(一作陶翰詩)」(1372)

墨客鍾張侶、材高吳越珍。千門來謁帝、駟馬去榮親。吏邑沿清洛、鄉山指白蘋。歸期應不遠、當及未央春。

【注釈】

『増全』1-999

(26)-2・06957陶翰「送集賢學士伊闕史少府放歸江東覲省(一作綦母潛詩)」(卷一四六・4-1476)

墨客鍾張侶、材高吳越珍。千門來謁帝、駟馬去榮親。吏邑沿清洛、鄉山指白蘋。歸期應不遠、當及未央春。

【諸本】

『文苑英華』卷二八四(2b)・詩一三四・送行十九・送人省覲(2-1442)

『唐音統籤』卷一一三(5a)(2-194)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷二四(6a)(18-6157)

【注釈】

『増全』1-1100→綦母潛詩

Ⅲ 慕母潛の文

- ①以下に掲げる作品は、『全唐文』卷三三三(10a)(4-3374)による。
②題名の前に、I「主要文献」(1)『唐代の散文作品』の作品番号を示した。

(1)07198「龍興寺銘」

在昔元命、運革唐德。大象有歸、神器載復。天人用慶、元津扇福。迺命率土、崇之法堂。錫名取類、棟宇以光。善本物持、淨亦神護。發地騰焰、莫知其故。疎綴烟消、迴廊燼去。半落層構、斜通平地。烈烈皇叔、總我古城。象設不觀、風埃咸盈。崩殘不葺、忠孝何并。乃廣其施、誘人助成。英英郡貳、亦既同聲。粲粲僧士、誰非會情。投心霧塞、效信泉傾。舊製俄滿、新規更營。龍跳透檻、虎翼飛甍。與國同劫、配天作程。假詞紹美、吁其以驚。

Ⅳ 慕母潛の伝記資料

(1)(唐)10584顧況「監察御史儲公集序」

聖人賢人、皆鍾運而生。述聖賢之意、亦鍾運盛衰矣。開元十四年、嚴黃門知考功、以魯國儲公進士高第。與崔國輔員外、慕母潛著作同時。其明年、擢第常建少府、王龍標昌齡。此數人皆當時之秀。

●『全唐文』卷五二八(13a)(6-5368)

*作者名の前の数字は、I「主要文献」(1)『唐代の散文作品』の作品番号である。以下に、この序が見える文献を示す。本文は省略する。

『華陽集三卷・子非熊詩附一卷』卷下(13b)・文類

●文淵閣四庫全書本

『顧華陽集三卷・補遺一卷』卷下(14b)・文類

●中国国家図書館・清咸豐五年(1855)雙峯堂刻本(番号なし・『善本書目』)になし。天津圖書館藏)

『文苑英華』卷七〇三(1b)・序五・文集五(5-3623)

『儲光羲集五卷』「儲光羲集序」

●中国国家図書館・明銅活字印本07807・2023

『唐五十家詩集』『儲光羲集五卷』「儲光羲集序」(4-1973)

『全唐詩稿本』『儲光羲集』「儲光羲集序」(19-6438)

(2)(唐)殷璠『河嶽英靈集』卷中(45a)・慕母潛(93-31)／和刻本・卷中(10a)(267)

潛詩屹峯峭蒨足佳句、善寫方外之情。至如「松覆山殿冷」、不可多得。又「塔影挂清漢、鐘聲和白雲」、歷代未有。荊南分野、數百年來、獨秀斯人。

○傅璇琮『唐人選唐詩新編』170

○王克讓『河嶽英靈集注』251

(3)(唐)林寶『元和姓纂』卷二・七之・慕母・南康

開元右拾遺慕母潛、虔州人。

〔岑仲勉校〕開元右拾遺慕母潛 叢編一三引諸道石刻錄聖壽寺碑、拾遺慕母潛撰。新書六〇、潛字孝通、開元中由宜壽尉入集賢院待制、遷右拾遺、終著作郎。解題一九、開元十三年進士、唐才子傳二作「十四年」。著作郎又見宋僧傳一四法慎傳。

〔岑仲勉校〕虔州人 解題一九、南康慕母潛。南康、今贛州。按唐之南康即虔州、後來之贛縣也。

●『元和姓纂(附四校記)』(全三冊)1-123(中華書局、1994年)

○陶敏『元和姓纂新校證』47(遼海出版社、2015年)

(4)(宋)贊寧『宋高僧傳』卷十四・名律篇第四之一・「唐揚州龍興寺法慎傳」

釋法慎、姓郭氏、江都人也。……黃門侍郎盧藏用才高名重、罕於推挹。一見于慎、慕味循環、不能離坐。

退而歎曰、「宇宙之内、信有高人」。黃門於院中置以經藏、嚴以香燈、天地無疆、像法常在。太子少保陸象先、兵部尚書畢構、少府監陸餘慶、吏部侍郎嚴挺之、河南尹崔希逸、太尉房琯、中書侍郎平章事崔渙、禮部尚書李澄、辭人王昌齡、著作郎綦母潛、僉所瞻奉、願同灑掃。感動朝宰如此。以天寶七載十月十四日、晨興盥漱、就胡牀加趺、心奉西方、既嚙而滅於龍興寺別院。春秋八十三、夏六十二。

●中華書局、1987年／全二冊·上-346

(5) (宋)歐陽脩·宋祁等『新唐書』卷六十·藝文志四·丁部集錄·別集類

綦母潛詩一卷。字孝通。開元中、繇宜壽尉入集賢院待制、遷右拾遺、終著作郎。

●中華書局、1975年／全二十冊·5-1609

(6) (宋)計有功『唐詩紀事』卷二十(12a)·綦母潛(99-168)

字孝通。開元中、繇宜壽尉入集賢院待制、遷右拾遺、終著作郎。

○王仲鏞『唐詩紀事校箋』3-641

(7) (宋)陳振孫『直齋書錄解題』卷十九·詩集類上

綦母潛集一卷 唐待制集賢院南康綦母潛孝通撰。南康、今贛州。

●上海古籍出版社、1987年／558

(8) 『直齋書錄解題』卷十九·詩集類上

儲光羲集五卷 唐監察御史魯國儲光羲撰。與崔國輔、綦母潛皆同年進士。天寶末任僞官、貶死。顧況爲集序。

●同上558

(9) (元)辛文房『唐才子傳』卷二·綦母潛

潛、字孝通。荊南人。開元十四年、嚴廸榜進士及第。授宜壽尉、遷右拾遺、入集賢院待制、復授校書、終著作郎。與李端同時。詩調屹峯峭蒨、足佳句。善寫方外之情、歷代未有。荊南分野、數百年來、獨秀斯人。後見兵亂、官況日惡、挂冠歸隱江東別業。王維有詩送之曰、「明時久不達、棄置與君同。天命無怨色、人生有素風」。一時文士咸賦詩祖餞、甚榮。有集一卷行世。

●傅璇琮『唐才子傳校箋(第一冊)』244(中華書局、1987年)

○『同(第五冊)』47(中華書局、1995年)

○周紹良『唐才子傳箋證』(全三冊)上-217(中華書局、2010年)

○布目潮瀨·中村喬『唐才子傳之研究』68(汲古書院、1982年)

(10) 『唐才子傳』卷一·王灣

灣、開元十一年、常無名榜進士。與學士綦母潛契切。詞翰早著、爲天下所稱。

●同上189

○傅氏『校箋(第五冊)』34

○周氏『箋證』上-186

○布目·中村『研究』56

(11) 『唐才子傳』卷二·崔國輔

國輔、山陰人。開元十四年、嚴廸榜進士。與儲光羲、綦母潛同時。

●同上229

○傅氏『校箋(第五冊)』42

○周氏『箋證』上-205

○布目·中村『研究』65

(12) (元)馬端臨『文獻通考』卷二四二·經籍考六九·集·詩集

綦母潛集一卷。陳氏曰、「唐待制集賢院南康綦母潛孝通撰。南康、今贛州」。

●中華書局、1986年／萬有文庫十通本影印／全二冊·下-1914

(13) 『文獻通考』卷二四二·經籍考六九·集·詩集

儲光羲集五卷。陳氏曰、「唐監察御史魯國儲光羲撰。與崔國輔、綦母潛皆同年進士。天寶末任僞官。貶死。顧況爲集序」。

●同上

(14) (清) 彭定求等『全唐詩』卷一三五・慕母潛(4-1368)

慕母潛、字季通、荊南人。開元十四年登進士第、由宜壽尉入爲集賢待制、遷右拾遺、終著作郎。詩一卷。

○陶敏『全唐詩作者小傳補正』(全二冊)上-316(遼海出版社、2010年)

(15) (清) 董誥等『全唐文』卷三三三(9b)・慕母潛(4-3374)

潛、字季通、荊南人。開元十四年進士。調宜壽尉、入集賢院待制、遷右拾遺、終著作郎。

○李德輝『全唐文作者小傳補正』(全二冊)上-295(遼海出版社、2011年)

(16) (清) 徐松『登科記考』卷七・開元十四年丙寅・進士三十一人

嚴廸、狀元。儲光羲、……崔國輔、……

慕母潛、唐才子傳、「慕母潛、字孝通、荊南人。開元十四年、嚴廸榜進士、授宜壽尉」。

●孟二冬『登科記考補正』(全三冊)上-283(北京燕山出版社、2003年)

(17) 岑仲勉『唐人行第錄』・慕母三潛

字孝通，見紀事二〇。全詩三函韋應物《和李二主簿寄淮上慕母三》，又二函李頎《寄慕母三》，李二即頎也。二函王維《送慕母潛落第還鄉》，又《送慕母祕書棄官還江東》。頎與潛唱酬頗多，如《題慕母校書別業》，《欲之新鄉答崔顥慕母潛》，《送慕母三謁房給事》，《送慕母三寺中》，《奉送五叔入京兼寄慕母三》，皆是也。

●『唐人行第錄(外三種)』144(中華書局、1963年)

IV-2 存疑

(18) (宋) 王應麟『玉海』卷一一二(15a)・學校・學校下・唐國子學 太學 五經博士 廣文館

集賢注記、天寶十三載八月、楊沖、慕母潛遷廣文博士。

●江蘇古籍出版社・上海書店、1987年／清光緒九年(1883)浙江書局刊本影印／全六冊・3-2065

○陶敏『景龍文館記・集賢注記』(中華書局、2015年)所収『集賢注記』卷下・學士名氏(343)

(19) 『玉海』卷一六五(27a)・宮室・館・唐廣文館(末尾割注)

集賢注記、天寶十三載八月戊申、慕母潛遷廣文博士。張籍亦爲廣文博士。

●同上4-3040

○陶敏『集賢注記』卷下・學士名氏(343)

※聞一多『唐詩大系』(『聞一多全集』四、三聯書店、1982年)、小川環樹『唐詩概説』(岩波書店、1958年)によれば、慕母潛の生卒年は、如意元年(692)～天寶八載(749)?であり、天寶十三載には亡くなっている。傅璇琮『唐五代文学編年史』(全四冊)初盛唐卷-907・927(遼海出版社、1998年)は、『集賢注記』の記述を取り入れた上で、慕母潛の没年を天寶十三載あるいはそのやや後としている。

『集賢注記』の撰者は、韋述。I「主要文献」(4)周氏『大辞典 唐五代卷』(76)によれば、?～至德二載(757)の人。

V 慕母潛の交遊資料

①以下に掲げる交遊人物は、II「慕母潛の詩」、IV「慕母潛の伝記資料」に見られるものを除く。

②以下に掲げる作品の引用は、『全唐詩』、『全唐文』による。

③『全唐詩』は、巻数、冊数、頁数を示した。

④作者名の前に、I「主要文献」(1)『唐代の散文作品』、(2)『唐代の詩篇 第一冊』『同 第二冊』の作品番号を示した。

⑤『唐代の詩篇』の情報と本稿作成者が確認したものとを【諸本】として示した。なお諸本の詩題・本文は省略した。

⑥諸本のあとに、全注釈を中心とした注釈書を【注釈】として示した。

(1) 03024張九齡「在洪州答綦母學士」(卷四八・2-583)

旬雨不愆期、由來自若時。爾無言郡政、吾豈欲天欺。常念涓塵益、惟歡草樹滋。課成非所擬、人望在東菑。

【諸本】

『唐丞相曲江張先生文集二十卷・附錄一卷』卷二(14a)・詩・奉和聖製 樂章 和酬諸公詩

●四部叢刊31-15・南海潘氏藏明成化九年(1473)韶州刊本影印

『張子壽文集二十卷』卷二(12b)・詩・奉和聖製 樂章 和酬諸公詩

●中国国家図書館・明成化九年(1473)蘇鞞刻本03543・2013

『張文獻公集十二卷』卷二(13b)・詩

●中国国家図書館・明嘉靖二四(1545)李而進刻遞修本A00515・2013

『曲江張文獻先生文集十二卷・附錄一卷』卷二(16a)・雜詩

●中国国家図書館・明萬曆四四年(1616)謝正蒙刻本15810(『善本書目』では15180)・2014

『唐丞相曲江張先生詩集二卷』卷上(16a)・雜詩 樂章

●『和刻本漢詩集成 唐詩 第一輯』90・寛政十一年(1799)京都采蘭堂印本影印

『唐五十家詩集』『張九齡集六卷』卷三(4b)・五言律詩(2-1082)

『唐音統籤』卷八十(10b)・五言律詩(2-10)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』初唐卷五四(6a)・五言律詩(9-2814)

【注釈】

陳貽焮『增訂注釈全唐詩』1-310

熊飛『張九齡集校注』(全三冊)上-106(中華書局、2008年)

(2) 03117張九齡「同綦母學士月夜聞雁」(卷四九・2-601)

棲宿豈無意、飛飛更遠尋。長途未及半、中夜有遺音。月思關山笛、風號流水琴。空聲兩相應、幽感一何深。避繳歸南浦、離羣叫北林。聯翩俱不定、憐爾越鄉心。

【諸本】

『唐丞相曲江張先生文集』卷五(4b)・詩・雜著(31-30)

『張子壽文集』卷五(4a)・詩

『張文獻公集』卷三(16b)・詩并口號

『曲江張文獻先生文集』卷三(22a)・雜詩

和刻本『唐丞相曲江張先生詩集』卷下(18b)・雜詩 口號(105)

『唐五十家詩集』『張九齡集』卷六(10b)・五言排律(2-1160)

『文苑英華』卷三二八(10b)・詩一七八・禽獸一・鴈(2-1706)

『唐音統籤』卷八二(8a)・五言排律二(2-23)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』初唐卷五五(10b)・五言排律(9-2862)

【注釈】

『増全』1-326

袁閻坤『全唐詩広選新注集評』2-65

熊氏『校注』上-305

(3) 07669孟浩然「題李十四莊兼贈綦母校書」(卷一六〇・5-1633)

聞君息陰(一作蔭)地、東郭柳林間。左右瀟澗水、門庭緱氏山。抱琴來取醉、垂釣坐乘閒。歸客莫相待、尋(一作緣)源殊未還。

* 以下の文献については、II「綦母潛の詩」(23)-2を参照。

【諸本】

四部叢刊『孟浩然集』卷三(8a)・五言律詩(33-21)

宋蜀刻本唐人集叢刊『孟浩然詩集』卷上(14a)・詩(45)

屠倬、陳鳳等刻本『孟浩然集』卷三(8a)・五言律詩

顧道洪刻本『孟浩然詩集』卷上(20a)
凌蒙初刻本『孟浩然詩集』卷下(5b)・五言律詩
湖北先正遺書『孟浩然集』卷二(9b) * 未見(『唐代の詩篇』による情報)
元祿刊本『孟浩然詩集』卷上(20b)・贈答(170) * 詩題「題李十四莊」
元文刊本『孟浩然詩集』(36a)・五言律詩(132)
『唐五十家詩集』『孟浩然集』卷二(9b)・五言律詩(3-1232)
『十二家唐詩』『孟浩然集』卷下(9a)・五言律詩
『唐十二家詩』『孟浩然集』(23b)・五言律詩
『前唐十二家詩』『孟浩然集』卷下(9a)・五言律詩
『五唐人詩集』『孟襄陽集』卷一(24b)・贈答
『文苑英華』卷三一九(8b)・詩一六九・居處九・山莊(2-1650)
『唐音統籤』卷一〇七(6b)・五言律詩二(2-158)
『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷十八(2b)・五言律詩(20-7005)

【注釈】

『増全』1-1237
游信利『孟浩然集箋注』184
曹永東・王沛霖『孟浩然詩集箋注』227
趙桂藩『孟浩然集注』239
楊軍『新譯孟浩然詩集』147
佟培基『孟浩然詩集箋注(増訂本)』187
徐鵬『孟浩然集校注』181
李景白『孟浩然詩集校注』291
李翔翥『孟浩然詩全集』233
公庄博『孟浩然詩全訳注』下-67
黒川洋一「続・孟襄陽集編年詩注」60(『大阪大学教養部研究集録(人文・社会科学)』33、1985年)
* 川口「孟浩然詩注作品対照表(増補版)」番号142

(4) 06308 李頎「送綦母三謁房給事」(卷一三二・4-1342)

夫子大名下、家無鍾石儲。惜哉湖海上、曾校蓬萊書。外物非本意、此生空澹如。所思但乘興、遠適唯單車。高道時坎坷、故交願吹嘘。徒言青瑣闥、不愛承明廬。百里人戶滿、片言爭訟疏。手持蓮花經、目送飛鳥餘。晚景南路別、炎雲中伏初。此行儻不遂、歸食蘆洲魚。

【諸本】

『唐李頎集三卷』卷三(3b)・五言排律
● 中国国家図書館・明正徳十年(1515)劉成徳刻本02980・2015
『李頎集三卷』卷上(2a)・五言古詩
● 中国国家図書館・明銅活字印本07806・2015
『唐五十家詩集』『李頎集三卷』卷上(9b)・五言古詩(3-1326)
(明)黃貫曾『唐詩二十六家』『李頎集三卷』卷上(1b)・五言古詩
● 国立公文書館(内閣文庫)・明嘉靖三三年(1554)黃氏浮玉山房刊本
* また、中国国家図書館・明嘉靖三三年黃氏浮玉山房刻本A05425・2673がある。
『唐詩紀事』卷二十(13b)・綦母潛(99-169)
○ 王仲鏞『唐詩紀事校箋』3-643
『唐音統籤』卷一三一(10a)・五言古詩(2-306)
『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四一(6b)・五言古詩(18-6053)

【注釈】

『増全』1-969

劉宝和『李頎詩評注』51(山西教育出版社、1990年)

羅琴·胡嗣坤『李頎及其詩歌研究』11(巴蜀書社、2009年)

王錫九『李頎詩歌校注』(全二冊)上-115(中華書局、2018年)

川口喜治『李頎詩選注稿』87(私家版、2012年)

(5) 06326 李頎「題綦母校書別業」(卷一三二·4-1346)

常稱挂冠吏、昨日歸滄洲。行客暮帆遠、主人庭樹秋。豈伊問(一作得)天命、但欲爲山遊。萬物我何有、白雲空自幽。蕭條江海上、日夕見丹丘。生事非(一作本)漁釣、賞心隨去留。惜哉曠微月、欲濟無輕舟。倏忽令人老、相思河水流。

【諸本】

『唐李頎集』卷一(3a)·五言古詩

『李頎集』卷上(9b)·五言古詩

『唐五十家詩集』『李頎集』卷上(9b)·五言古詩(3-1326)

『唐詩二十六家』『李頎集』卷上(8b)·五言古詩

『河嶽英靈集』卷上(28a)(93-23)／和刻本·卷上(27b)(258)

○傅璇琮『唐人選唐詩新編』149

○王克讓『河嶽英靈集注』161

『文苑英華』卷三一八(4a)·詩一六八·居處八·別業(2-1642)

『唐音統籤』卷一三一(3b)·五言古詩(2-302)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四一(13a)·五言古詩(18-6066)

【注釈】

『増全』1-974

『全広』2-309

劉氏『評注』99

羅氏『研究』45

王氏『校注』上-225

(6) 06342 李頎「欲之新鄉答崔顥綦母潛」(卷一三三·4-1350)

數年作吏家屢空、誰道黑頭成老翁。男兒在世無產業、行子出門如轉蓬。吾屬交歡此何夕、南家擣衣動歸客。銅鑪將炙相歡飲、星宿縱橫露華白。寒風卷葉度滹沱、飛雪布(一作覆)地悲峨峨。孤城日落見棲鳥、馬上時聞漁者歌。明朝東路把君手、臘日辭君期歲首。自知寂寞無去思、敢望縣人致牛酒。

【諸本】

『唐李頎集』卷二(2b)·七言古詩

『李頎集』卷中(7a)·七言古詩

『唐五十家詩集』『李頎集』卷中(7a)·七言古詩(3-1349)

『唐詩二十六家』『李頎集』卷中(6a)·七言古詩

『唐音統籤』卷一三二(4b)·七言古詩(2-309)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四二(5a)·七言古詩(18-6078)

【注釈】

『増全』1-978

劉氏『評注』140

羅氏『研究』100

王氏『校注』上-331

川口『稿』343

(7) 06374 李頎「送綦母三寺中賦得紗燈」(卷一三四·4-1360)

禪室吐香燼、輕紗籠翠煙。長繩挂青竹、百尺垂紅蓮。熠燿衆星下、玲瓏雙塔前。含光待明發、此別豈徒然。

【諸本】

- 『李頎集』卷下(2a)・五言律詩
『唐五十家詩集』『李頎集』卷下(2a)・五言律詩(3-1367)
『唐詩二十六家』『李頎集』卷下(1b)・五言律詩
『唐音統籤』卷一三三(3a)・五言律詩(2-315)
『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四三(2a)・五言律詩(18-6102)

【注釈】

- 『増全』1-987
劉氏『評注』237
羅氏『研究』144
王氏『校注』下-554

(8) 06386 李頎「寄綦母三」(卷一三四・4-1362)

新加大邑綬仍黃、近與單車去洛陽。顧眄一過丞相府、風流三接令公香。南川稷稻花侵縣、西嶺雲霞色滿堂。共道進賢蒙上賞、看君幾歲作臺郎。

【諸本】

- 『唐李頎集』卷三(8b)・七言律詩
『李頎集』卷下(10a)・七言律詩
『唐五十家詩集』『李頎集』卷下(10a)・七言律詩(3-1383)
『唐詩二十六家』『李頎集』卷下(8b)・七言律詩
『唐音統籤』卷一三三(8b)・七言律詩(2-318)
『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四三(5a)・七言律詩(18-6108)

*『全唐詩稿本』は「七言律詩」とあるべき行に、書き込みがあり、消えている。Harvard本・中国国家図書館本『唐詩紀』(Ⅱ「綦母潛の詩」(1)参照)で「七言律詩」を確認。

【注釈】

- 『増全』1-989
劉氏『評注』264
羅氏『研究』181
王氏『校注』下-607
『唐詩選』卷五・七言律詩

(9) 06406 李頎「奉送五叔入京兼寄綦母三」(卷一三四・4-1366)

雲陰帶殘日、悵別此何時。欲望黃山道、無由見所思。

【諸本】

- 『唐李頎集』卷三(9b)・五言絕句
『李頎集』卷下(11a)・五言絕句
『唐五十家詩集』『李頎集』卷下(11a)・五言絕句(3-1385)
『唐詩二十六家』『李頎集』卷下(9b)・五言絕句
趙校『萬首唐人絕句』卷二(25b)・五言第二・盛唐前
○霍松林『萬首唐人絕句校註集評』上-238
『唐音統籤』卷一三三(10a)・五言絕句(2-319)
『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四三(11a)・五言絕句(18-6120)

【注釈】

- 『増全』1-993
『全広』2-322

劉氏『評注』317

羅氏『研究』190

王氏『校注』下-763

(10) 06411 李頎「送五叔入京兼寄綦母三」(卷一三四·4-1367)

吏部明年拜官後、西城必與故人期。寄書春草年年色、莫道相逢玉女祠。

【諸本】

『李頎集』卷下(12a)·七言絕句 * 詩題「送五叔」

『唐五十家詩集』『李頎集』卷下(12a)·七言絕句(3-1387) * 詩題「送五叔」

『唐詩二十六家』『李頎集』卷下(10b)·七言絕句 * 詩題「送五叔」

趙校『萬首唐人絕句』卷十二(24a)·七言二·盛唐前

○霍氏『集評』中-123

『唐音統籤』卷一三三(10b)·七言絕句(2-319)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷四三(12a)·七言絕句(18-6122)

【注釈】

『増全』1-993

劉氏『評注』327

羅氏『研究』194 * 詩題「送五叔」

王氏『校注』下-779

(11) 05531 王灣「哭補闕亡友綦母學士」(卷一一五·4-1171)

明代資多士、儒林得異才。書從金殿出、人向玉墀來。詞學張平子、風儀褚彥回。崇儀希上德、近侍接元台。曩契心期早、今遊宴賞陪。屢遷君擢桂、分尉我從梅。忽遇乘軺客、云傾構厦材。泣爲涸水化、歎作泰山頽。冀善初將慰、尋言半始猜。位聯情易感、交密痛難裁。遠日寒旌暗、長風古挽哀。寰中無舊業、行處有新苔。反哭魂猶寄、終喪子尙孩。葬田門吏給、墳木路人栽。遽洩悲成往、俄傳寵令迴。玄經貽石室、朱紱耀泉臺。地古春長閉、天明夜不開。登山一臨哭、揮淚滿蒿萊。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷下(64b)(93-41) / 和刻本·卷下(3b)(276)

○傅氏『新編』194

○王氏『集注』350

『唐音統籤』卷八七(4a)(2-49)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷二(4b)(9-2701)

【注釈】

『増全』1-801

『全広』2-356

(12) 06700 王昌齡「東京府縣諸公與綦母潛李頎相送至白馬寺宿(一作同府縣諸公送綦母潛李頎至白馬寺)」(卷一四〇·4-1427)

鞍馬上東門、裴回入孤舟。賢豪相追送、卽擢千里流。赤岸(一作遠峯)落日在、空波微煙收。薄宦忘機括、醉來卽(一作復)淹留。月明見古寺、林外登高樓。南風開長廊、夏夜如涼秋。江月照吳縣、西歸夢中遊。

【諸本】

『王昌齡集二卷』卷上(12a)·五言古詩

●中国国家図書館·明銅活字印本07808·2015

『王昌齡詩集五卷·拾遺一卷』卷一(16a)·五言古

●『和刻本漢詩集成 唐詩 第一輯』298·享保十八年(1733)京都水玉堂天王寺屋市郎兵衛刊本影印

『唐五十家詩集』『王昌齡集二卷』卷上(12a)·五言古詩(3-1449)

『唐詩二十六家』『王昌齡集二卷』卷上(10b)·五言古詩

●本項目(4)參照。

『河嶽英靈集』卷中(57a)(93-37)／和刻本·卷中(21b)(273)

○傅氏『新編』186

○王氏『集注』316

『文苑英華』卷二八七(2a)·詩一三七·留別二(2-1459)

『唐音統籤』卷一一〇(6b)·五言古詩二(2-179)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷二一(11a)·五言古詩(21-7365)

【注釈】

『増全』1-1059

『全広』2-393

李國勝『王昌齡詩校注』72(文史哲出版社、1973年)

李雲逸『王昌齡詩注』46(上海古籍出版社、1985年)

胡問濤·羅琴『王昌齡集編年校注』128(巴蜀書社、2000年)

公庄博『王昌齡詩集』92(涓滴文庫、2001年)

(13) 05728 盧象「送綦母潛」(卷一二二·4-1220)

夫君不得意、本自滄海(一作江)來。高足未云騁、虛舟空復迴。淮南楓葉落、灞岸桃花開。出處暫爲耳、沈浮安繫哉。如何天覆物、還遣世遺才。欲識秦將漢、嘗聞王與裴。離筵對寒食、別雨乘春雷。會有徵書到、荷衣且(一作莫)漫裁。

【諸本】

『河嶽英靈集』卷下(69a)(93-43)／和刻本·卷下(7b)(278)

○傅氏『新編』200

○王氏『集注』374

『文苑英華』卷二六九(9a)·詩一一九·送行四(2-1361)

『唐音統籤』卷一一四(6a)(2-197)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷二四(12a)(22-7711)

【注釈】

『増全』1-845

(14) 10417 高適「同崔員外綦母拾遺九日宴京兆府李士曹」(卷二一四·6-2231)

今日好相見、羣賢仍廢曹。晚晴催翰墨、秋興引風騷。絳葉擁虛砌、黃花隨濁醪。閉門無不可、何事更登高。

【諸本】

『高常侍集八卷』卷六(5a)·五言律詩

●四部叢刊33-34·上海涵芬樓藏明活字本影印

『高常侍集十卷』卷六(4b)·五言律詩

●中国国家図書館·明刻本06995·2022

『高常侍集十卷』卷五(3a)·詩

●中華再造善本·清代編·集部、中國國家圖書館所藏清初影宋抄本影印(國家圖書館出版社、2009年)

『唐五十家詩集』『高常侍集八卷』卷六(5a)·五言律詩(4-1879)

『十二家唐詩』『高常侍集二卷』卷下(5a)·五言律詩

『唐十二家詩』『高適集一卷』(54b)·五言律詩

『前唐十二家詩』『高常侍集二卷』卷下(5a)·五言律詩

『唐音統籤』卷一一九(2a)·五言律詩(2-223)

『全唐詩稿本』『唐詩紀』盛唐卷二九(8a)·五言律詩(20-6913)

【注釈】

『増全』1-1776

阮廷瑜『訂正再版高常侍詩校注』156(國立編譯館中華叢書編審委員會、1980年)

劉開揚『高適詩集編年箋註』243(中華書局、1981年)

孫欽善『高適集校注(修訂本)』215(上海古籍出版社、2014年)

李丹『高適詩全集』293(崇文書局、2020年)

* 川口喜治「高適詩集・詩注作品所在対照表」番号170(『中唐文学会報』20、2013年)

(15) 05809王維「送綦毋潜(一作校)書棄官還江東」(卷一二五・4-1242)

明時久不達、棄置與君同。天命無怨色、人生有素風。念君拂衣去、四海將安窮。秋天萬里淨、日暮澄(一作九)江空。清夜何悠悠、扣舷明月中。和光魚鳥際、澹爾蒹葭叢。無庸客昭世、衰鬢日(一作白)如蓬。頑疏暗人事、僻陋遠天聰。微物縱可采、其誰爲至公。余亦從此去、歸耕爲老農。

【諸本】

『須溪先生校本唐王右丞集六卷』卷五(5a)

● 四部叢刊33-40・元刊本影印

『王右丞文集十卷』卷五(3b)・送留別遊覽

● 『古典研究會叢書 漢籍之部 第三十二卷』132・靜嘉堂文庫所藏宋版影印(汲古書院、2005年)

『王摩詰文集十卷』卷九(3b)・雜詩

● 宋蜀刻本唐人集叢刊・北京圖書館藏宋蜀刻本影印(上海古籍出版社、1994年)・全二冊2-280

『唐王右丞詩劉須溪校本六卷』卷五(4a)

● 中国国家図書館・明弘治十七年(1504)呂夔刻本07662・2020

(明)顧起經『類箋唐王右丞詩集十卷・文集四卷・外編一卷・唐諸家同詠集一卷・唐諸家贈題集一卷・唐宋諸家評王右丞詩畫鈔一卷(凡例のあとに年譜一卷)』卷二(3b)・五言古詩・送別

● 『類箋王右丞全集』(全二冊)1-190・明嘉靖三五年(1556)刊本影印(臺灣學生書局、1970年)

(明)顧可久『唐王右丞詩集六卷』卷五(7b)

● 中国国家図書館・明萬曆十八年(1590)吳氏漱玉齋刻本09031・2021

『王摩詰集十卷』卷二(2a)・五言古詩

● 中国国家図書館・明刻本16799・2019

(清)何焯校跋『王摩詰集十卷』卷二(丁数なし)・五言古詩

● 中国国家図書館・清抄本06993・2019

(清)趙殿成『王右丞集二八卷・首一卷・末一卷』卷三(19a)・古詩

● 中国国家図書館・清乾隆(1736~1795)刻本19356・2022/『王右丞集箋注』(全二冊)上-46(中華書局香港分局、1972年)

(明)顧可久『唐王右丞詩集六卷』卷五(7a)

● 『和刻本漢詩集成 唐詩 第一輯』384・正德四年(1714)京都唐本屋八郎兵衛・萬屋喜兵衛覆明萬曆庚寅(十八年(1590))休陽吳氏漱玉齋刊本影印

『唐五十家詩集』『王摩詰集六卷』卷二(2a)・五言古詩(3-1555)

『十二家唐詩』『王摩詰集二卷』卷上(16b)・五言古詩

『唐十二家詩』『王維集一卷』(15a)・五言古詩

『前唐十二家詩』『王摩詰集二卷』卷上(16b)・五言古詩

『文苑英華』卷二六八(8a)・詩一一八・送行二(2-1355)

『唐才子傳』卷二・綦毋潜*冒頭四句

● 傅璇琮『唐才子傳校箋(第一冊)』249

○ 周紹良『唐才子傳箋證』上-217

○ 布目潮瀨・中村喬『唐才子傳之研究』68

* 上記の三文献については、IV「綦毋潜の伝記資料」(9)を参照。

『唐音統籤』卷九七(9a)・五言古詩二(2-104)

『全唐詩稿本』『王摩詰集』卷上(16b)・五言古詩(10-2925)

【注釈】

『増全』1-865

『全広』2-451

陳鐵民『王維集校注(修訂本)』(全四冊)1-251(中華書局、2018年)

釋清潭『淵明・王維全詩集(続国訳漢文大成)』111(日本図書センター、1978年)

小川環樹・都留春雄・入谷仙介『王維詩集』153(岩波書店、1972年)

二宮美那子・好川聡『王維・孟浩然』127(明治書院、2020年)

(16) 05817 王維「送綦母潛落第還鄉(一作送別)」(卷一二五・4-1243)

聖代無隱者、英靈盡來歸。遂令東山客、不得顧采薇。既至君(一作金)門遠、孰云吾道非。江淮度寒食、京洛(一作兆)縫春衣。置酒臨長道(一作長安道。一作長亭送)、同心與我違。行當浮桂櫂、未幾拂荆扉。遠樹帶行客、孤村(一作城)當落暉。吾謀適不用、勿謂知音稀。

【諸本】

『須溪先生校本唐王右丞集』卷五(10b)(33-43) * 詩題「送別」

靜嘉堂本『王右丞文集』卷五(8a)・送留別遊覽(141) * 詩題「送別」

宋蜀刻本『王摩詰文集』卷九(8b)・雜詩(2-290) * 詩題「送別」

『唐王右丞詩劉須溪校本』卷五(9b) * 詩題「送別」

顧起經『類箋唐王右丞詩集』卷二(25a)・五言古詩・送別(1-233) * 詩題「送別」

顧可久『唐王右丞詩集』卷五(17b) * 詩題「送別」

明刻本『王摩詰集』卷二(4b)・五言古詩 * 詩題「送別」

何焯『王摩詰集』卷二(丁数なし)・五言古詩 * 詩題「送別」

趙殿成『王右丞集』卷四(6b)・古詩／上-54 * 詩題「送別」

和刻本・顧可久『唐王右丞詩集』卷五(16a)(389) * 詩題「送別」

『唐五十家詩集』『王摩詰集』卷二(4b)・五言古詩(3-1560) * 詩題「送別」

『十二家唐詩』『王摩詰集』卷上(19b)・五言古詩 * 詩題「送別」

『唐十二家詩』『王維集』(17b)・五言古詩 * 詩題「送別」

『前唐十二家詩』『王摩詰集』卷上(19b)・五言古詩 * 詩題「送別」

『河嶽英靈集』卷上(14b)(93-16)／和刻本・卷上(14b)(252)

○傅氏『新編』132

○王氏『集注』83

『文苑英華』卷二六八(7b)・詩一一八・送行二(2-1354)

『唐文粹』卷十五上(11b)・詩庚・古調歌篇三・餞送(93-116)

『唐音統籤』卷九七(9a)・五言古詩二(2-104)

『全唐詩稿本』『王摩詰集』卷上(19b)・五言古詩(10-2931) * 詩題「送別」

【注釈】

『増全』1-867

『全広』2-453

陳氏『校注』1-23

釋清潭『全詩集』127 * 詩題「送別」

小川・都留・入谷『詩集』167 * 詩題「送別」

二宮・好川『王維・孟浩然』40 * 詩題「送別」

『唐詩三百首』卷一・五言古詩(陳媛俊『補注』7。II「綦母潛の詩」(2)を参照)

(17) 05824 王維「別綦母潛」(卷一二五・4-1245)

端笏明光宮(一作殿)、歷稔朝雲陛。詔刊延閣書、高議平津邸。適意偶輕人(一作輕微祿)、虛心(一作遇

人)削繁禮。盛得江左風、彌工建安體。高張多絕弦、截河有清濟。嚴冬爽羣木、伊洛方清泚。涓水冰下流、潼關雪中啓(一作閉。非)。荷蓀幾時還、塵纓待君洗。

【諸本】

- 『須溪先生校本唐王右丞集』卷五(18a)(33-47)
 靜嘉堂本『王右丞文集』卷五(13b)・送留別遊覽(152)
 宋蜀刻本『王摩詰文集』卷九(13a)・雜詩(2-299)
 『唐王右丞詩劉須溪校本』卷五(15a)
 顧起經『類箋唐王右詩集』卷二(20b)・五言古詩・送別(1-224)
 顧可久『唐王右丞詩集』卷五(27b)
 明刻本『王摩詰集』卷二(6b)・五言古詩
 何焯『王摩詰集』卷二(丁数なし)・五言古詩
 趙殿成『王右丞集』卷四(14a)・古詩／上-61
 和刻本・顧可久『唐王右丞詩集』卷五(25a)(393)
 『唐五十家詩集』『王摩詰集』卷二(7b)・五言古詩(3-1566)
 『十二家唐詩』『王摩詰集』卷上(22a)・五言古詩
 『唐十二家詩』『王維集』(19b)・五言古詩
 『前唐十二家詩』『王摩詰集』卷上(22a)・五言古詩
 『文苑英華』卷二六八(7b)・詩一一八・送行二(2-1354)
 『唐詩紀事』卷二十(12a)・綦母潛(99-168)
 ○王氏『校箋』3-642
 『唐音統籤』卷九七(9a)・五言古詩二(2-104)
 『全唐詩稿本』『王摩詰集』卷上(22a)・五言古詩(10-2936)

【注釈】

- 『増全』1-869
 陳氏『校注』2-400
 釋清潭『全詩集』142

(18) 06502 儲光羲「酬綦母校書夢耶溪見贈之作」(卷一三六・4-1383)

校文在仙掖、每有滄洲心。況以(一作此)北窗下、夢遊清溪陰。春看湖水(一作口)漫、夜入迴塘深。往往纜垂葛、出舟望前林。山人松下飯、釣客蘆中吟。小隱何足貴、長年固可尋。還車首東道、惠言若黃金(一作南金)。以我采薇意、傳之天姥岑(後五句一作勝遊在幽尋、歷茲山水間、冷然若鳴琴、申章謝來意、愧莫酬知音)。

【諸本】

- 中国国家図書館本『儲光羲集』卷二(3b)・五言古詩
 ●IV「綦母潛の伝記資料」(1)参照。
 『唐五十家詩集』『儲光羲集』卷二(3b)・五言古詩(4-2008)
 『河嶽英靈集』卷中(53b)(93-35)／和刻本・卷中(18a)(271)
 ○傅氏『新編』182
 ○王氏『集注』297
 『文苑英華』卷一六六(10a)・詩十六・池部八・雜題(2-798)
 『唐音統籤』卷九一(2b)・五言古詩三(2-64)
 『全唐詩稿本』『唐儲光羲集』卷一(15b)・五言古詩(19-6470)

【注釈】

- 『増全』1-1011
 『全広』3-21

(19) 09035 韋應物「和李二主簿寄淮上綦母三」(卷一八八・6-1926)

滿城憐傲吏、終日賦新詩。請(去聲)報淮陰客、春帆浪作(音佐)期。

【諸本】

『韋刺史詩集十卷・附錄一卷』卷三(11b)・寄贈下

●四部叢刊33-24・明嘉靖戊申(二七年(1548))華雲江州刊本影印

『韋蘇州集十卷・拾遺一卷』卷三(15a)・寄贈下

●中国国家図書館・宋刻本08708・2041

『韋蘇州集十卷』卷三(15a)

●民國二六年江蘇省立國學圖書館陶風樓用館藏宋本後六卷配麻沙本景印*未見(『唐代之詩篇』による情報)

*『中國古籍善本書目 集部』上-61(上海古籍出版社、1998年)によれば、前半四卷は、現南京圖書館藏「韋蘇州集十卷 宋刻本 清丁丙跋 存四卷 一至四」(番号758)に相当すると考えられる。

『韋蘇州集十卷・拾遺一卷』卷三(15a)・寄贈下

●中国国家図書館・宋刻元重修本05450・2041

『韋蘇州集十卷』卷十(4b)・五言絕句

●中国国家図書館・明銅活字印本08709・2041

『韋蘇州集十卷』卷三(17b)・寄贈下

●Harvard-Yenching Library・明末(1621~1644)余懷訂正本

『韋蘇州集十卷』卷三(14b)・寄贈下

●中国国家図書館・清項氏玉淵堂刻本17465・2042

『須溪先生校本韋蘇州集十卷・拾遺一卷』卷三(17a)・寄贈下

●『和刻本漢詩集成 唐詩 第八輯』269・寶永三年(1706)刊本影印(汲古書院、1975年)

『唐五十家詩集』『韋蘇州集十卷』卷十(4b)・五言絕句(7-3850)

(明)毛晉『唐人六集』『韋蘇州集十卷・(序のあと、目録のまえに)拾遺一卷』卷三(39a)・寄贈下

●中国国家図書館・清初(1644~1722)毛氏汲古閣刻本17094・2679

『唐詩百名家全集』『韋蘇州集十卷・拾遺一卷』卷三(18a)・寄贈下

●II「綦母潛の詩」(20)-2参照。

『唐詩紀事』卷二十(12b)・綦母潛(99-168)

○王氏『校箋』3-642

『萬首唐人絕句』五言・卷七(4b)

趙校『萬首唐人絕句』卷五(22a)・五言第五・中唐亨

○霍氏『集評』上-531

『唐音統籤』卷二三〇(3b)・五言絕句(3-201)

『全唐詩稿本』『韋蘇州集』卷三(15a)・寄贈下(24-8151)

【注釈】

『増全』1-1509

阮廷瑜『韋蘇州詩校注』326(華泰文化事業公司、2000年)

孫望『韋應物詩集繫年校箋』28(中華書局、2002年)

陶敏・王友勝『韋應物集校注(増訂本)』205(上海古籍出版社、2011年)

V-2 存疑

次の資料は、綦母潛と陶翰、顧況、皎然との交遊の可能性や何らかの関係を示すと思われるものである。以下に述べるように、顧況、皎然との交遊の可能性は低いが、綦母潛を研究する上で裨益することもあるも知れないので、本稿作成者の整理と備忘の意味も込めて掲げておく。

また各資料についての詳細な検討はのちに譲ることとして、ここでは「存疑」として当該資料と気付とを示す

にとどめる。

(20) 10581顧況「禮部員外郎陶氏集序」(『全唐文』卷五二八(10a)・6-5366)

樂殷上帝、上帝臨下、俾夫文星、驚動民心。二南六義、在乎章句、安樂哀思、在乎音響。君子入其國、觀其樂、知其教、制氏徒備乎鏗鏘、此立言之大、傳稱不朽、易曰尚詞。唐詞臣姓陶氏、諱翰、冀方思深之裔、前漢青、後漢謙、東晉侃、至靖節、貞白二先生、生人表秀、聞朝育才、方守省署、慶鍾於君。開元十八年進士上第、天寶文明載登宏詞、拔萃兩科、累陟太常博士、禮部員外郎、喉舌密勿、壇場破的、無發不中、行在六經、志在五言。尤精賦序、朝出暮徧、殷如奮鐸、聲塞海隅、化諸溺音、蔚公之容、風山籟靜。然華實光於苑圃、綦母著作潛、王龍標昌齡則其勍敵。登公之門、李膺之門也、鮑馬二京兆、中書謝舍人良弼、良輔、侍御史李封、殿中劉全誠、名自公出、名著公器、神人所怪、寧貴不名詳矣。大抵文體十年一更、有體病而才贍、有言紆而事直、有文勝而理乖、雅豔殊致、雲和之源、杳以無窮、折爲萬派。嗣子問儒爲法官、捧先人之集、霜露之疾、將愬於吾綦母通問之世友、撫事編次、咨於彝訓、稽於故實、是有冠篇之述乎哉。

*句読点は、今仮に I「主要資料」(7)『中華大典』(2-346)によった。

【諸本】

*次の顧況の集については、IV「綦母潛の伝記資料」(1)参照。

四庫全書本『華陽集』卷下(10b)・文類

中国国家図書館(天津圖書館藏)本『顧華陽集』卷下(11a)・文類

『文苑英華』卷七〇二(10a)・序四・文集四(5-3622)

※(20)より、綦母潛と陶翰との交遊の可能性あるいは何らかの関係が推測される。

IV「綦母潛の伝記資料」2「存疑」の閻氏『唐詩大系』、小川氏『唐詩概説』によれば、綦母潛の生卒年は、如意元年(692)～天寶八載(749)?であり、陶翰は長安元年(701)～天寶十三載(754)?であり、その生存期間がほぼ重なる。

陶翰が禮部員外郎であったことは、次の資料から確認できる。その所在情報のみを掲げておく。省略した書誌にかかる情報は、凡例、IV「伝記資料」を参照されたい。

『新唐書』卷六十・藝文志四・丁部集録・別集類(5-1603)

『唐詩紀事』卷二十(15b)(99-170)／○王氏『校箋』3-650

『直齋書錄解題』卷十九・詩集類上(560)

『唐才子傳』卷二・陶翰／●傅氏『校箋(第一冊)』279、○『同(第五冊)』54、○周氏『箋證』上-237、○布目・中村『研究』76

『全唐詩』卷一四六(4-1473)

『全唐文』卷三三四(1a)(4-3378)

『登科記考』卷七・開元十八年庚午・進士二十六人／●孟氏『補正』上-299

(清)勞格・趙鉞『唐尚書省郎官石柱題名考』卷二十・禮部員外郎(848)(中華書局、1992年)

岑仲勉『郎官石柱題名新考訂(外三種)』139(上海古籍出版社、1984年)

(21) 13673顧況「奉酬茅山贈賜并簡綦母正字(一本題上作奉酬韋夏卿送歸茅山)」(卷二六六・8-2953)

玉帝居金闕、靈山幾處朝。簡書猶有畏、神理詎能超。鶴廟新家近、龍門舊國遙。離懷結不斷、玉洞(一作洞府)一吹簫。

【諸本】

『華陽集』卷中(14b)・五言律詩

『顧華陽集』卷中(13a)・五律

『文苑英華』卷二四三(5b)・詩九三・酬和四(2-1223)

『唐音統籤』卷二一六(3b)・五言律詩(3-119)

『全唐詩稿本』『顧況詩集』五言律詩(25-8730)

【注釈】

『増全』2-672

王啓興・張虹『顧況詩注』161(上海古籍出版社、1997年)

※(20)(21)、またⅣ「綦母潛の伝記資料」(8)『直齋書錄解題』より、綦母潛と顧況との関係の可能性が推測される。

但し、Ⅰ「主要文献」(6)呉氏『唐五代人交往詩索引』では、(21)詩を顧況と綦母潛との交遊詩としていない。その理由は、綦母潛の伝記資料に見えない(21)の詩題にある「正字」という官名と以下のようなことから判断される。

綦母潛と同姓の人に綦母誠があり、『全唐詩』卷二七二(9-3058)に「官、正字。詩一首」と伝える。残る詩の題のみ示せば「同韋夏卿送顧況歸茅山」である。

顧況の生卒年は、前掲の聞氏『大系』、小川氏『概説』よれば、開元十五年(727)～元和十年(815)?である。ならば、綦母潛の生卒年を上述のように如意元年(692)～天寶八載(749)?とすると、顧況との年齢の開きは三十五歳くらいになる。

さて、この(21)詩の制作時期を最大に早めて、綦母潛の没年近くとすることが可能であるとしたばあい、顧況は二十数歳であり、詩制作の可能性はなくはないが、秘書省著作局の著作郎(従五品上。以下、品階は礪波護『唐の行政機構と官僚』(中央公論社、1998年)による)に達した綦母潛が、その没年近くに、秘書省の正字(正九品下)と称せられる可能性はないであろう。(11)王灣「哭補闕亡友綦母學士」から、最終官位を少し低く考えて、門下省・中書省の左・右補闕(従七品上)であるとしても、同様であろう(ちなみに、(1)の熊氏『張九齡集校注』は、(1)(2)(11)の「綦母學士」を綦母潛ではなく、集賢院直學士・綦母昉であるとしている)。

顧況詩の「綦母正字」は、陶敏『全唐詩作者小傳補正』(上-489)(Ⅳ「伝記資料」(14)参照)、同氏『全唐詩人名彙考』(492)(Ⅱ「綦母潛の詩」凡例⑦参照)が指摘するように、綦母誠であろう。

ただ、綦母誠であるとしても、(20)顧況「序」に綦母潛の名が見えており、顧況を通じて、ここの「綦母正字」と綦母潛に何らかの関係があるやもしれないので、敢えて冗漫な指摘をしてみた。

ちなみに、綦母誠詩の詩題の「韋夏卿」は、綦母誠の直前に詩三首、『全唐文』卷四三八(22a)(5-4473)に文二篇を伝える。詩のうち一首は「送顧況歸茅山」であり、(21)顧況詩の詩題の異文にも韋夏卿の名が見える。韋夏卿は、Ⅰ「主要資料」(4)『中国文学家大辞典 唐五代卷』(80)に依れば、天寶二年(743)から元和元年(806)の人。『舊唐書』卷一六五(中華書局、1975年/全十六冊・13-4297)、『新唐書』卷一六二(Ⅳ「綦母潛の伝記資料」(5)参照/16-4995)に伝があり、吏部侍郎、京兆尹などの要職についている。また、蘇州刺史にもなっており、以後の項目において示す資料、例えばⅧ「地理書」(1)(宋)范成大『吳郡志』に、吳縣の龍興寺碑を再建したとある人物と考えてよからう。そして、この碑は、房瑄が序(07182「龍興寺碑序」)、『全唐文』卷三三二(15b)・4-3368)、綦母潛が銘(Ⅲ「綦母潛の文」参照)を書いたものである。

(22)44444皎然「冬日遙(一作奉)和盧使君幼平綦母居士遊法華寺高頂臨湖亭(一作奉和盧使君幼平遊朝陽山寺臨太湖。時在郭、不得往。)」(卷八一五・23-9175)

仁坊(一作祠)標(一作當)絕境、廉守(一作明牧)躡高(一作靈)蹤。天曉纔分刹、風傳欲盡鐘(一作欲到心涼地、初聞斷續鐘)。城中歸路遠(一作在)、湖上碧山重。水照千花界、雲開七葉峯。寒芳(一作空)艾綬滿、空(一作晴)翠白淪濃。逸韻知難繼、佳遊恨不逢。仍聞撫禪石、爲我久從容。

【諸本】

『晝上人集十卷』卷一(7b)

●四部叢刊33-5・江安傅氏雙鑑樓藏景宋寫本影印

『唐三高僧詩集』『杼山集十卷・補遺一卷』卷一(10a)

●中国国家図書館・明末(1621～1644)毛氏汲古閣刻本16772・2681

『文苑英華』卷二三六(8b)・詩八六・寺院四(2-1191) * 詩題「奉和盧使君幼平遊朝陽山寺臨太湖(時在郭、不得往)」

『文苑英華』卷三一五(10b)・詩一六五・居處五・亭(2-1624)

『唐音統籤』卷八八二(2a)・五言排律(8-558)

『全唐詩稿本』『杼山集』卷一(10a)(68-23661)

【注釈】

『増全』5-456

乾源俊主編『詩僧皎然集注』124(汲古書院、2014年)

(23) 44603 皎然「夏日與綦母居士昱上人納涼」(卷八一七・23-9207)

爲依爐峯住、境勝增道情。涼日暑不變、空門風自清。坐援香實近、轉愛綠蕪生。宗炳青霞士、如何知我名。

【諸本】

『晝上人集』卷三(9a)(33-20)

『唐三高僧詩集』『杼山集』卷三(14b)

『唐音統籤』卷八七九(9b)・五言律詩(8-544)

『全唐詩稿本』『杼山集』卷三(14b)(68-23761)

【注釈】

『増全』5-481

※(22)(23)の皎然詩における「綦母居士」が綦母潛である可能性は極めて低いと判断されるが、ひとまず掲げておく。

綦母潛の生卒年は、前述のように、如意元年(692)～天寶八載(749)?。また綦母潛の死を悼んだとされる(11)『哭補闕亡友綦母學士』の作者・王灣の生卒年は、聞氏『大系』、小川氏『概説』よれば、長壽二年(693)～天寶十載(751)?とされている。一方、皎然の生卒年は、賈晋華『皎然年譜』(廈門大学出版社、1992年)は、開元八年(720)頃～貞元九年(793)から同十四年秋の間、『詩僧皎然集注』齋藤茂氏「前言」は、開元八年(720)頃～貞元九年(793)から同十一年の間、と推定している。これらに従うならば、綦母潛と皎然には三十ばかりの年齢差があることになる。

*ちなみに、植木久行「唐代作家新疑年録(3)」(弘前大学『文経論叢(人文科学篇)』10、1990年)は、皎然の生年を開元八年?、卒年を貞元十六年夏以降二一年までの期間としている。

次に、(22)の皎然詩の制作時期について、賈氏『年譜』は永泰元年(765)から大曆三年(768)としており、『集注』はそれを紹介している(長谷川愼氏担当)。さらに賈氏『年譜』は、(23)の制作時期も同じ期間としている。そうであるならば、両詩の制作時には、綦母潛は既に逝去していることになる。

かりに、両詩の制作時期を最大に早めて、綦母潛の没年近くとすることが可能であるとしたら、皎然は、賈氏『年譜』等に従うと、三十歳前となる。

なお、『年譜』、『集注』ともに、「綦母居士」については「未詳」とする。官位にあった綦母潛に対して「居士」の称を用いるかどうかとも検討を要する。ちなみに『集注』は、(23)の「昱上人」について、陶敏『全唐詩人名考證』(陝西人民出版社、1996年、1020頁)の「靈煜」であるという説を紹介する(200頁、藤原祐子氏担当)。靈煜については待考。

VI 著録

①個別の作品にかかる資料も掲げている。

②別途「地理書」の項目を立てたが、こちらで示した資料もある。

(1) (宋) 歐陽脩・宋祁等『新唐書』卷六十・藝文志四・丁部集録・別集類(5-1609)

綦母潛詩一卷。字孝通。開元中、繇宜壽尉入集賢院待制、遷右拾遺、終著作郎。

●IV「綦母潛の伝記資料」(5)参照。

(2) (宋) 鄭樵『通志』卷七十・藝文略第八・別集四・別集詩

綦母潛詩一卷。

●中華書局、1987年／萬有文庫十通本影印／全三冊・1-824

(3) (宋)尤袤『遂初堂書目』別集類

碁母潛集。

●『說郛三種』(全十冊)(上海古籍出版社影印、1988年)

涵芬樓百卷本『說郛』卷二八(36b)(1-497)

明刻百二十卷本『說郛』弓十・『遂初堂書目』(43b)(3-483)

(4) (宋)王象之『輿地碑記目』卷一(17b)・婺州碑記

聖壽寺碑。唐碁母潛文。……已上竝在蘭溪縣。

●Harvard-Yenching Library・清同治九年(1870)滂喜齋本

*また、中国国家図書館・清同治九年吳縣潘祖蔭滂喜齋刻本(善本書号「古441 584」、『善本書目』になし)がある。

(5) (宋)陳振孫『直齋書錄解題』卷十九・詩集類上(558)

碁母潛集一卷 唐待制集賢院南康碁母潛孝通撰。南康、今贛州。

●IV「碁母潛の伝記資料」(7)参照。

(6) (宋)陳思『寶刻叢編』卷十三(16a)・兩浙東路・婺州

唐聖壽寺碑。唐拾遺碁母潛撰(諸道石刻錄)。

●Harvard-Yenching Library・清光緒五年(1879)歸安陸氏十萬卷樓叢書本

(7) 『寶刻叢編』卷十四(10b)・兩浙西路・蘇州

唐重建龍興寺碑。唐房瑄撰序。碁母潛銘。徐挺古分書。貞元十四年十月十五日、韋夏卿重刊立。沈寧篆額(復齋碑錄)。

●同上

*房瑄「龍興寺碑序」は『全唐文』卷三三二(15b)(4-3368)に見える。I「主要文献」(1)『唐代の散文作品』の作品番号07182。

(8) (宋)闕名『寶刻類編』卷四(16b)・名臣十三之四・唐・徐挺古(陳州參軍)

重建龍興寺碑。房瑄撰序。碁母潛銘。分書。沈寧篆額。貞元十四年十月十五日重刻立。蘓。

●文淵閣四庫全書本

(9) (元)馬端臨『文獻通考』卷二四二・經籍考六九・集・詩集(下-1914)

碁母潛集一卷。陳氏曰、「唐待制集賢院南康碁母潛孝通撰。南康、今贛州」。

●IV「碁母潛の伝記資料」(12)参照。

(10) (元)脫脫等『宋史』卷二〇八・藝文志七・集類四・二別集類

碁母潛詩一卷。

●中華書局、1985年／全四十冊・16-5345

(11) (明)焦竑『國史經籍志』卷五(45b)・集類・別集・唐

碁母潛詩一卷。

●国立公文書館(内閣文庫)・明刊本

*また、中国国家図書館・明萬曆(1573~1620)刻本CBM1333(『善本書目』になし)がある。

(12) (明)胡應麟『詩藪』雜篇・卷二・遺逸中・載籍

按唐書藝文志、鄭經籍略、竝不分詩文、中間容有單行文字、不錄詩歌者。然唐以茲取士、即間有之、不過千百之一。今集既亡、無從考證、姑從前例、備載篇中。……

盛唐……碁母潛一卷

●上海古籍出版社、1979年／266

(13) (明)胡震亨『唐音癸籤』卷三十・集錄一・盛唐

碁母潛一卷。

●上海古籍出版社、1980年／309

(14) (清)孫岳頌等『佩文齋書畫譜』卷六三(38a)・歴代無名氏書五・石三・唐上

聖壽寺碑。 綦母潛文、在蘭溪縣(輿地碑目)。

●国立公文書館(内閣文庫)・清靜永堂刊本

*また、Harvard-Yenching Library・清康熙四七年(1708)内府本、中国国家図書館・清康熙(1662～1722)内府刻本A02718・1334がある。

(15) (清)靖道謨等『貴州通志』卷四五(1a)・藝文・詩・五言律・唐

「送崔員外黔中監選」 綦母潛(本文省略)。

●Harvard-Yenching Library・清乾隆(1736～1795)本

(16) (清)倪濤『六藝之一錄』卷七六(23b)・石刻文字五二・唐碑・釋氏一

重建龍興寺碑。 房琯撰序。綦母潛銘。徐挺古分書。貞元十四年十月十五日、韋夏卿重刊立。沈寧篆額(復齋碑錄)。

●文淵閣四庫全書本

(17) 『六藝之一錄』卷七六(30b)・石刻文字五二・唐碑・釋氏一

聖壽寺碑。 拾遺綦母潛撰(諸道石刻錄)。

●同上

(18) 『六藝之一錄』卷一〇二(9b)・石刻文字七八・宋王象之輿地碑目・婺州碑記

聖壽寺碑。 唐綦母潛文。……已上竝在蘭溪縣。

●同上

VII 詩話類

①資料中の綦母潛詩の句には、必要に応じて、括弧内にその詩題を示した。他の唐詩人については、I「主要文献」(2)『唐代の詩篇』番号、『全唐詩』の詩題と巻数、冊数、頁数を示した。

②『唐詩品彙』、『唐詩歸』、『唐詩解』なども、この項目に示した。

(1) (唐)殷璠『河嶽英靈集』卷中(45a)・綦母潛(93-31)／和刻本・卷中(10a)(267)

潛詩屹峯峭蒨足佳句、善寫方外之情。至如「松覆山殿冷」(「題鶴林寺」)、不可多得。又「塔影挂清漢、鐘聲和白雲」(「題靈隱寺山頂禪院」)、歴代未有。荆南分野、數百年來、獨秀斯人。

○傅璇琮『唐人選唐詩新編』170

○王克讓『河嶽英靈集注』251

(2) (唐)范攄『雲溪友議』卷中・錢塘論

致仕尚書白舍人、初到錢塘、令訪牡丹花、獨開元寺僧惠澄、近於京師得此花栽、始植於庭、欄圍甚密、他處未之有也。時春景方深、惠澄設油幕以覆其上、牡丹自此東越分而種之也。會徐凝自富春來、未識白公、先題詩曰、「此花南地知難種、慚愧僧閑用意栽。海燕解憐頻睥睨、胡蜂未識更徘徊。虛生芍藥徒勞妒、羞殺玫瑰不敢開。唯有數苞紅幘在、含芳只待舍人來」(25088「題開元寺牡丹」、『全唐詩』卷四七四・14-5374)。白尋到寺看花、乃命徐生同醉而歸。時張祜榜舟而至、甚若疎誕。然張、徐二生、未之習穩、各希首薦焉。中舍曰、「二君論文、若廉、白之鬪鼠穴、勝負在於一戰也」。遂試「長劍倚天外賦」、「餘霞散成綺」詩。試訖解送、以凝爲元、祜其次耳。張曰、「祜詩有『地勢遙尊嶽、河流側讓關』(00917「入關」、『全唐詩』卷十八・1-183/27333「入潼關」、『同』卷五一〇・15-5814)。多士以陳後主『日月光天德、山河壯帝居』(「入隋侍宴應詔詩」、遼欽立『先秦漢魏晉南北朝詩』(全三冊)『陳詩』卷四・下-2520。中華書局、1983年)、此徒有前名矣。又祜『題金山寺』詩曰(此寺大江之中)、『樹影中流見、鐘聲兩岸聞』(27357「題潤州金山寺」、『全唐詩』卷五一〇・15-5818)。雖綦母潛云、『塔影掛青漢、鐘聲和白雲』(「題靈隱寺山頂禪院」)。此句未爲佳也」。

●唐雯『雲溪友議校箋』88(中華書局、2017年)

*なお同様の記事が、以下に見られる。

(宋)李昉等『太平廣記』卷一九九·文章二·杜牧(張國風『太平廣記會校』(全二十冊)7-2961。北京燕山出版社、2011年)

(宋)王讜『唐語林』卷三(周助初『唐語林校證』(全二冊)上-294。中華書局、1987年)

(宋)計有功『唐詩紀事』卷四一(10b)·徐凝(99-353) / ○王仲鏞『唐詩紀事校箋』6-1760

(宋)尤袤『全唐詩話』卷三·徐凝(何文煥『歷代詩話』(全二冊)上-137。中華書局、1981年)

(明)田汝成『西湖遊覽志餘』卷十(5b)·才情雅致

●中国国家図書館·明嘉靖二六年(1547)嚴寬刻本13761·798

(明)王昌會『詩話類編』卷二四·詩賞下(吳文治『明詩話全編』(全十冊)8-8665。江蘇古籍出版社、1997年)

(3) (宋)晁說之『嵩山文集』卷十六(34a)·「成州同谷縣社工部祠堂記」

天寶閒人物、特盛有如高適、岑參、孟浩然、雲卿、崔顥、國輔、薛據、儲光羲、綦母潛、元結、韋應物、王昌齡、常建、陶翰、秦系、嚴維、暢當、閻防、祖詠、皇甫冉、弟曾、張繼、劉(今上御名*)^ㄞ虛(虛の別体字)、王季友、李頎、賀蘭進明、崔署(曙)、王灣、張謂、盧象、李嶷之詩、粲然振耀於世。未肯少自屈而人亦莫敢致之也。

●四部叢刊續編·舊鈔本影印。商務印書館、1934年

*「今上御名」と割注されているのは、南宋の孝宗の諱の「昀」と考えられる。

(4) (宋)計有功『唐詩紀事』卷二十(12b)·綦母潛(99-168)

商璠云、「拾遺詩舉體清秀、蕭蕭跨俗、桑門之說、於己獨能。至如『松覆山殿冷』(「題鶴林寺」)、不可多得。又『鐘聲和白雲』(「題靈隱寺山頂禪院」)、歷代少有。借使若人加氣質、減彫飾、則高視三百年外也。」

○王仲鏞『唐詩紀事校箋』3-641

*傅璇琮『唐人選唐詩新編』と王氏『校箋』は、本項目(1)『河嶽英靈集』との異同を指摘する。

(5) (宋)嚴羽『滄浪詩話』考證

王荊公百家詩選、蓋本於唐人英靈、閒氣集。其初、明皇、德宗、薛稷、劉希夷、韋述之詩、無少增損、次序亦同。孟浩然止增其數。儲光羲後、方是荊公自去取。前卷讀之盡佳、非其選擇之精、蓋盛唐人詩無不可觀者。至於大曆已後、其去取深不滿意。況唐人如沈、宋、王、楊、盧、駱、陳拾遺、張燕公、張曲江、賈至、王維、獨孤及、韋應物、孫逖、祖詠、劉昫、綦母潛、劉長卿、李長吉諸公、皆大名家。李、杜、韓、柳以家有其集、故不載。而此集無之。荊公當時所選、當據宋次道之所有耳。其序乃言「觀唐詩者觀此足矣」。豈不誣哉。今人但以荊公所選、斂衽而莫敢議、可嘆也。

●郭紹虞『滄浪詩話校釋』243(人民文學出版社、1983年)

*同様の記述が、(宋)魏慶之『詩人玉屑』卷十一·考證(上海古籍出版社、1978年/全二冊·上-247)に見える。また(明)胡震亨『唐音癸籤』卷三一·集錄二·選詩·宋·唐百家詩選(VI「著録」)(13)/324)に、この条を引く。

(6) (宋)魏慶之『詩人玉屑』卷四·風騷句法·五言

鴈陣驚寒 先見後聞 「塔影掛青漢、鐘聲和白雲」(「題靈隱寺山頂禪院」)、「晴虹橋影出、秋鴈檣聲來」(23439白居易「河亭晴望(九月八日)」)、『全唐詩』卷四四七·13-5034)。

●上海古籍出版社、1978年/全二冊·上-96

(7) (宋)范曄文『對牀夜語』卷四

王維「寄崔鄭二山人」云、「鄭生老泉石、崔子老丘樊。賣藥不二價、著書仍萬言。息陰無惡木、飲水必清源。予賤不及議、斯人竟誰論」(05855「濟上四賢詠」鄭霍二山人)、『全唐詩』卷一二五·4-1252)。是時維官必未顯也。「送邱爲」云、「知爾不能薦、羞稱獻納臣」(05924「送丘爲落第歸江東」)、『同』卷一二六·4-1268)。則可言而不言。綦母潛之落第、孟浩然之斥還、豈亦維謀之薦之不力也。

●丁福保『歷代詩話續編』(全三冊)上-433(中華書局、1983年)

(8) (元)黃潛『金華黃先生文集』卷二一(12b)·題跋·「跋綦母潛詩」

唐綦母潛詩見於殷璠所編河嶽英靈集者六篇。而璠獨稱其「題鶴林」「松覆山殿冷」、不可多得。「題靈隱」「塔影掛清漢、鐘聲和白雲」、歷代未有。龍興在吳中、與兩山相望。此詩必一時之作。豈璠偶遺之耶。抑其

去取或自有意也。因觀間上所刻墨本、輒識其末以俟覽者詳焉。

●四部叢刊69-206・常熟瞿氏上元宗氏日本岩崎氏藏元刊本影印

(9) (明)高棟『唐詩品彙』五言古詩敘目(7a)・第十六卷・羽翼上

崔顥、陶翰、劉昫、薛據、崔署(曙)、李嶷、綦母潛、王灣、崔國輔、張謂、盧象、祖詠、王季友、賀蘭進明、閻防。(第十七卷・羽翼下の詩人名、省略)

昔朱晦菴先生嘗取漢魏五言以盡乎。郭景純、陶淵明之作以爲古詩之根本準則。又取自晉宋顏、謝以下諸人、擇其詩之近於古者、以爲羽翼輿衛。余於是編、正宗既定、名家載列、根本立矣。奈何羽翼未成。爰自採摭。及觀諸家選本、載盛唐詩者、唯殷璠河嶽英靈集獨多古調。璠嘗論曰、「夫文有神來、氣來、情來、有雅體、野體、鄙體、俗體。編紀者能審鑒諸體、委詳所來、方可定其優劣、論其取舍」。又曰、「璠今所集、頗異諸家。既閑新聲、復曉古體。文質半取、風騷兩挾」。斯言得之矣。若夫太白、浩然、儲、王、常、李、高、岑數公、已揭(「揭」の誤りか?)於前。他如崔顥、薛據、張謂、王季友諸人、皆李、杜當時所稱許、相與發明斯道、賡歌鼓舞、以鳴乎盛世之音者矣。今以崔司勳等十五人共詩八十一首爲上卷。……天寶諸賢凡三十六人得詩七十四首爲下卷。合而題曰、羽翼。竊效晦菴之意歟。學者觀之、能審諸體、而辯所來。庶乎不作開元、天寶以下人物。與夫野狐外道蒙蔽其眞識者、又奚足以知此哉。

●上海古籍出版社、1988年/上海辭書出版社藏・明汪宗尼校訂本影印/49

(10)『唐詩品彙』七言絕句敘目(2a)・第三卷・羽翼

王維、賈至、岑參、儲光義、杜甫、常建、高適、孟浩然、李頎、崔國輔、張謂、王之渙、綦母潛、薛據、蔡希寂(希)寂、沈頌、張僊、吳象之、張潮、元結、嚴武、李華、獨孤及。

正宗之外、同鳴於時者、王維、賈至、岑參。亦盛又如儲光義、常建、高適之流、雖不多見、其興象聲律一致也。杜少陵所作雖多、理趣甚異。故略。其頗同調者數首。以通天寶諸賢得二十三人共詩九十九首、爲羽翼。

●同上428

(11)『唐詩品彙』五言律詩敘目(4a)・第八卷・羽翼(507)

王灣、盧象、崔顥、祖詠、儲光義、李頎、綦母潛、王昌齡、張謂、賈至、崔署(曙)、常建、裴迪、張子容、寇坦、鄭德玄、蔡希寂、薛據、閻防、殷遙、丁仙芝、張巡、張均、韋迢、顏真卿、李澄、丘爲、張軫、徐鼎、閻丘曉。

右三十人、雖篇什不多見、其神秀聲律與前數公實相羽翼、皆善鳴者也。通得詩八十六首爲一卷。

●同上507

(12) (明)郎瑛『七修類稿』卷二五・「七賢過關姓名」

七賢過關、人多謂唐人。元・唐愚士詩曰、「七騎從容出帝闈、蹇驢驄馬雜山犍。瀛洲學士參差出、十八人中一半人」(文淵閣四庫全書本『唐愚士詩』卷三(19b)・「題趙徵時雙騎圖」得鞚金羈不動塵、新蒲細柳曲江春。瀛洲學士參差是、十八人中見兩人)。夫瀛洲之士、講學謀國、未聞有七賢之名、又未聞騎驢、騾及牛者、不知愚士何據而云。(宋)董道『廣川書跋』以謂李白、李頎、之遜(未詳。中国国家図書館のウェブサイトで閲覧可能な四種の『七修類稿』も同じ(04683、13712、15820、天津圖書館本)も同じ。なお『舊唐書』卷一九〇中・文苑列傳中・宋之問列傳(V「綦母潛の交遊資料」(21)参照/15-5026)、『新唐書』卷二〇二・文藝列傳中・宋之問列傳(IV「綦母潛の伝記資料」(5)参照/18-5751)に、宋之問の弟として宋之遜(『新』は「宋之遜」が見える)、孟浩然、綦母潛、裴迪、司馬承禎出關訪王維。國初夏節又親見古圖、謂開元冬、李白、張九齡、王維、張說、鄭虔、李華、孟浩然、同游洛南之龍門、遇雪而虔圖之。夫李白天寶間方來京師、李華天寶間方拜官、自與數人不同。『書跋』以承禎騎牛。考史、承禎方士、取其隱也、安有騎牛之放耶。二說雖有虞邵庵((元)虞集)「孟像詩」「風雪空堂破帽溫、七人圖裏一人存」(『道園遺藁』卷五(20b)・絕句七言・「孟浩然」)●中国国家図書館・清影元抄本A00640・2265)之句、然自註與記又不同人、是殆多非唐矣。

●吳文治『明詩話全編』(全十冊)3-2351(江蘇古籍出版社、1997年)

(13) (明)皇甫汈『解頤新語』

綦母季通詩傳者頗少。英華載其「宿太平觀」云、「夕到玉京寢、宵冥雲漢低。魂交仙室蝶、曙聽羽人鷄。滴

瀝花上露、清冷松下溪。明當訪真隱、揮手入無倪」。又「送崔員外黔中監選」云、「持衡出帝畿、星指夜郎飛。神女雲迎馬、荊門雨濕衣。聽猿收淚罷、繫鴈待書稀。蠻貊雖殊俗、知君肝膽微」。

●『明詩話全編』3-3268

(14)『解頤新語』

綦母潛「塔影掛清溪、鐘聲和白雲」(「題靈隱寺山頂禪院」、信爲絕倡。劉長卿「香隨青靄散、鐘過白雲來」(07233「自道林寺西入石路至麓山寺過法崇禪師故居」、『全唐詩』卷一四八·5-1527)、亦其亞矣。崔峒「清磬渡山翠(下句:閒雲來竹房)」(15701「題崇福寺禪院」、『同』卷二九四·9-3343)、乃爲勅敵。

●『明詩話全編』3-3272

* (明)王昌會『詩話類編』卷二一·品評中(『同上』8-8586)に同様の記述がある。

(15) (明)何良俊『四友齋叢說』卷三六·考文

綦母潛「題淨林寺山頂禪院」詩「塔影掛清漢、鐘聲和白雲」、集本與諸選詩皆作「和」、河嶽英靈集亦取「鐘聲和白雲」爲警句。余初疑鐘聲如何與白雲相和、恐其未穩、後見文苑英華作「扣白雲」、乃知言寺之塔影掛於清漢、鐘聲出於白雲、則是扣於白雲之中也。以形容山頂之高、殊渾成、勝和字。

●『明詩話全編』4-3583

* (明)王昌會『詩話類編』卷二六·詩彈(『同上』8-8742)に、この条を引く。

(16) (明)胡震亨『唐音癸籤』卷五·評彙一(49)

綦母拾遺潛詩、舉體清秀、蕭蕭跨俗。桑門之役、於己獨能。至如「松覆山殿冷」(「題鶴林寺」、不可多得。又如「鐘聲和白雲」(「題靈隱寺山頂禪院」、歷代未有。借使若人加氣質、減雕飾、則高視三百年外也。

●VI「著録」(13)参照。

(17) (明)馮復京『說詩補遺』卷七

綦母季通「題靈隱寺」云、「塔影掛清漢、鐘聲和白雲」。下云、「行道衆香焚」。一篇之中、自有玉石。不如「宿龍興寺」八句勻稱。薛據「西陵口觀海」(13299、『全唐詩』卷二五三·8-2853)、頗學六朝、但少精銳耳。與據同讀書終南者、閻防宿精舍古詩(13292「宿岸道人精舍」、『同』卷二五三·8-2851)亦倣謝康樂體。「夏鳥忽綿蠻」(13293閻防「夕次鹿門山作」、同)、黃鶯非夏鳥、似不成句。

●『明詩話全編』7-7298

(18) (明)鍾惺·譚元春『唐詩歸』卷十四(20a)·盛唐九·綦母潛

* 評語は、引用した句の直後にある。詩の全文は、省略。

「冬夜寓居寄儲太祝」

「自爲洛陽客、夫子吾知音」:鍾云、古真而奧。

「盡義能下士、時人無此心」:譚云、奇士感懷。使人欲涕。

「巢鳥悲空林、愁坐至月上」:譚云、五字何等奧。

鍾云、只一真直、深婉閑細。俱不出其內。

「春泛若耶谿」

「幽意無斷絕、此去隨所偶」:鍾云、有氣力。

「晚風吹行船、花路入谿口」:譚云、好境。

「潭煙飛溶溶、林月低向後」:譚云、妙語浮出、如不經心手者。○鍾云、靜中看出。

「題棲霞寺」

「南山勢廻合、……萬壑奔道場」:鍾云、棲霞真形圖。

「羣峰向雙樹、天花飛不着」:鍾云、飛不着三字、說得天花一新。

「水月白成路」:鍾云、說得着迹而幻。

「送章彝下第」

「黃鶯啼就馬」:譚云、就字、妙。○鍾云、好光景。只似喜人登第語。對失意人立言、只宜如此。

「三十名未立、君還惜寸陰」:鍾云、好心好語。

「題靈隱寺山頂禪院」

「塔影挂清漢」:鍾云、影挂、便妙。

「鐘聲和白雲」:鍾云、上句妙在影字。此句妙在和字。

「行道衆香焚」:潭云、衆香、好。

「題沈東美員外山池」

「秦人辨雞犬、堯日識巢由」:潭云、因巢由見堯之大。是定論、而句法簡而密。

「登天竺寺」

「郡有化城最、西窮疊嶂深。松門當澗口、石路在峰心」:鍾云、奇境真境。

「幽見夕陽霽、高逢暮雨陰」:鍾云、暮雨着逢字、妙。然非高字、說不出。

「佛身瞻紺髮、寶地踐黃金」:潭云、二語醜。

「過融上人蘭若」

「黃昏半在下山路」:潭云、半在、妙。

鍾云、不獨幽韻。音響亦甚清奧。

●国立公文書館(内閣文庫)・明萬曆(1573~1620)刊本

*また、Harvard-Yenching Library・『詩歸』存『唐詩歸』三六卷・明本がある。

*なお、Harvard-Yenching Library、中国国家図書館(番号なし・『善本書目』)になし。天津圖書館藏に、劉敦重訂・明末刻本『詩歸』がある。

(19) (明)唐汝詢『唐詩解』卷三七(12a)・五言律詩七・綦母潛

「宿龍興寺」(本文省略)

此因遊寺而美其僧也。入香刹而忘歸者、愛繞殿之松陰也。燈明于室、珠繫於衣、取其光也。指日傳心、顯而易見。以蓮喻法、潔而不染。故能使天花數下、飛鳥皆能啣之。此詩語極無味、格調甚卑。入于鱗(李攀龍)選、我所不解。

「題靈隱寺山頂院」*詩題と本文のみ。本文省略。

●Harvard-Yenching Library・清順治己亥(十六年(1659))萬笈堂本

*また、中国国家図書館・明萬曆(1573~1620)刻本19172・2790がある。

*なお、『刪定唐詩解』が、国立公文書館(内閣文庫)・康熙四十年(1701)序刊本、中国国家図書館・清康熙四一年誦懿堂刻本(番号なし・『善本書目』)になし。天津圖書館藏があり、「卷十八(11b)・五言律詩三」に見える。上記の引用部分に違いがある。

(20) (明)王昌會『詩話類編』卷二・名論上・第四格

有事無事爲第四格。……綦母潛「題高峰院」詩「塔影掛青漢、鐘聲和白雲」。

●『明詩話全編』8-7982

(21) (明)賀貽孫『詩筏』

嚴季鷹(嚴武)詩、世人未有推重之者、余獨愛其骨氣近少陵、咏「楠木」篇(13482「題巴州光福寺楠木」、『全唐詩』卷二六一・8-2907)尤似少陵「古柏行」(10768、『同』卷二二一・7-2334)諸作、蓋亦朋友漸摩之力耳。因此推之、凡與王、孟同時者、氣韻亦往往相類。如綦母潛「靈隱寺」詩云、「塔影掛清漢、鐘聲和白雲」。「題棲霞寺」云、「天花飛不着、水月白成路」。「送章彝下第」云、「黃鶯啼就馬、白日暗歸林」。「泛若耶溪」、「晚風吹行舟、花路入溪口。潭煙飛容容、林月低向後」。「若耶溪逢孔九」云、「人生上皇代、犬吠武陵家」。「題鶴林寺」云、「松覆山殿冷、花藏谿路遙」。又「過蘭若」云、「黃昏半在下山路、却聽鐘聲戀翠微」。裴迪「謁操禪師」云、「有法知不染、無言誰敢酬。鳥飛爭向夕、蟬噪已先秋」(06167「夏日過青龍寺謁操禪師」、『同』卷一二九・4-1312)。「遊感化寺」云、「入門穿竹徑、留客聽山泉。鳥囀深林裏、心閒落照前」(06166、同)。「華子岡」云、「落日松風起、還家草露晞。雲光侵履跡、山翠拂人衣」(06170、同・4-1313)。祖詠「泊揚子津」、「林藏初過雨、風退欲歸潮」(06279、『同』卷一三一・4-1335)。此等語置之摩詰、襄陽集中、殆不能復辨、豈獨風氣使然耶。

●『明詩話全編』10-10425

●郭紹虞『清詩話續編』(全四冊)1-183(上海古籍出版社、1983年)

(22) (明)金聖嘆『貫華堂選批唐才子詩』卷二・綦母潛

〔經陸補闕隱居〕(本文省略)

(前半四句)。讀二、三、四句、陸可稱真補闕矣。乃起手又必追寫被徵之初者、蓋爲題是經陸隱居。隱居、是陸未授補闕時所居、則陸之舍此而終去、正在起爲補闕之日也。陸之爲補闕也、如二、三、四句所云、則可稱無忝矣。獨是不敢要君一徵竟起、遺此故居、終竟不返、以是爲極痛也。不然、便似題是「哭陸補闕」。(後半四句)。五、六、非寫琴鶴、乃是借琴鶴以興下諫草。言琴可亡、鶴可去、遺稿決不可失。然亦是切隱居以寫補闕、故妙。

●『金聖嘆全集(四)』136(江蘇古籍出版社、1985年)

(23) (明)周珽等『刪補唐詩選脈箋釋會通評林』卷三·五言古詩·盛唐一(37b)·綦母潛

〔春泛若耶溪〕(本文省略)

殷潘曰、—省略—。

周敬曰、潛詩摘其雋句。覺花影零亂。(綦母潛の名のあと、詩題の前に記載)

〔訓〕此因泛耶溪卽其晚暮、情景幽致。言此時覺平生事業瀾漫、莫知所適。今睹此良時美景、思不若持竿、老于溪濱之爲得也。

〔頭注(上下二層の上層)〕

唐如順曰、秀。古。

鍾惺曰、起有氣力。烟、月二語、靜中看出。

譚元春曰、「花路入谿口」、好境。「潭烟飛溶溶、林月低向後」、妙語浮出、如不經心手者。

陳繼儒曰、遺其形迹、動乎天機、詩至此進乎技矣。

●臺灣國家圖書館·明崇禎乙亥(八年(1635))海昌周氏穀采齋刊本(オンライン・デジタルアーカイブ)。

検索ページ:<https://rbook.ncl.edu.tw/NCLSearch/Search/Index/1>。但し、本稿作成者のパソコン環境では接続が悪く、画像も不鮮明であるので、I「主要文献」(7)『中華大典』綦母潛・論述・分論(2-174)に頼りつつ、判読できた限りで引く)。次の(24)も同様。

(24) 『刪補唐詩選脈箋釋會通評林』卷三十·五言律詩·盛唐中上(9b)·綦母潛

〔題靈隱寺山頂院〕(本文省略)

〔訓〕三四詠山頂睹聽之高廣、五六詠寺中修持之虛寂、皆下界所未易相聞者也。結有得悟忘歸之意。

〔頭注〕

殷潘曰、—省略—。

周敬曰、風騷句法。云塔影二語、爲鴈陣驚寒、謂先見後聞也。

李維貞曰、影挂、便妙。

鍾惺曰、三句妙在影字、四句妙在和字。

譚元春曰、衆香、妙。

〔宿龍興寺〕(本文省略)

〔訓〕此詩首二句見宿寺、後俱美寺僧、深於佛教也。唐解明燈於空、繫珠於衣、取其光也。指日傳心、顯而易見。以蓮喻法、潔而無染。故能使天花數下、飛鳥皆能啣之。或嫌其用事太實。金石聲多則可。然則此題不得離此語□(判読不能文字)。

〔頭注〕

何景明曰、詞義渾成、足悟禪趣。

蔣一梅曰、工出自然、天趣時逸。

唐汝詢曰、「松青古殿扉」五字、可□(判読不能文字)。

黃家鼎曰、無刻練、無脂粉、漸近自然。

〔宿太平觀〕(本文省略)

〔訓〕中四句宿觀之情與觀宿之景。結應起語。日宵冥、日無倪、日到、日入、皆有斟酌。

〔頭注〕

周珽曰、用事切當。五六賦景澄妍。

(25) (清)賀裳『載酒園詩話又編』盛唐・丘爲、祖詠、盧象、綦毋潛、裴迪

讀丘爲、祖詠詩、如坐春風中、令人心曠神怡。其人與摩詰友、詩亦相近、且終卷和平淡蕩、無叫號噪噉之音。唐詩人惟丘幾近百歲、其詩固亦不干天和也。詠與盧象、稍有悲涼之感、然亦不激不傷。盧情深、祖尤骨秀。……○綦毋潛似覺風氣稍別、如「石路在峯心」(「登天竺寺」)、非諸公所能道、大似王昌齡句法。○輞川倡和、裴迪尤多、其詩體反不甚與王近、較諸公骨格稍重。裴早友王維、晚交杜甫、篇什必多。今所存惟維集數篇、不勝遺珠之恨。

●『清詩話續編』1-311

(26) 『載酒園詩話又編』晚唐・張祜

宮體諸詩、實皆淺淡、即「故國三千里、深宮二十年」(27435「宮詞二首」其一、『全唐詩』卷五一一・15-5834)、亦甚平常、不知何以合譽至此。惟「金山寺」作(27357「題潤州金山寺」、『同』卷五一〇・15-5818)眞佳、祜自謂可敵綦毋潛「靈隱寺禪院」詩。余則謂正與王灣「北固山下」作(05527、『同』卷一一五・4-1170)竝驅耳。結語稍湊、不能損價也。

●『清詩話續編』1-369

* (清)吳喬『園爐詩話』卷三(『同上』1-568)に、この条を簡略化して引く。

(27) (清)施閏章『螻齋詩話』綦毋潛

潛詩「塔影挂清漢、鐘聲和白雲」(「題靈隱寺山頂禪院」)。論者謂遜張祜「樹影中流見、鐘聲兩岸聞」(本項目(2)参照)。誠然。至白尙書以祜「觀獵」詩、謂張三較王右丞、未敢優劣。似尙非篤論。祜詩曰、「曉出禁城東、分園淺草中。紅旗開向日、白馬驟迎風。背手抽金鏃、翻身控角弓。萬人齊指處、一雁落寒空」(27241「觀徐州李司空獵」、『全唐詩』卷五一〇・15-5797)。細讀之、與右丞氣象全別。

●丁福保『清詩話』(全二冊)上-408(上海古籍出版社、1978年)

(28) (清)王夫子『唐詩評選』卷三・五言律・綦毋潛二首

「題靈隱寺山頂禪院」(本文省略)

平善。「鐘聲扣白雲」句入幽出朗、扣者鐘與雲而俱扣也。無名理者、不能作景語。結近湊泊。

「宿龍興寺」(本文省略)

三四用事入化、結尤神合禪理。詩只此不墮蔬笋氣。

●文化藝術出版社、1997年/106

(29) (清)董說『棟花磯隨筆』卷上

唐人題山寺亦難得好語。綦毋潛「題鶴林寺」起四句、「道門隱形勝、向背臨層霄。松覆山殿冷、花藏谿路遙」、有生色。而結云、「願謝攜手客、茲山禪誦饒」、便又車馬塵。詩寧拙無俗。

●『明詩話全編』10-10844

(30) (清)王士禛『居易錄』卷二一(5b)

唐五言詩、開元、天寶間大匠同時竝出。王右丞而下、如孟浩然、王昌齡、岑參、常建、劉昫、李頎、綦毋潛、祖詠、盧象、陶翰之數公者、皆與摩詰相頡頏。獨儲光羲詩、多龍虎鉛汞之氣。田園樵牧諸篇、又迂闊不切事情。而古今稱儲王、何也。高適質樸不免笨伯。杜甫沉鬱多出變調。李白、韋應物超然復古。然李詩有古調、有唐調、要須分別觀之。

●国立公文書館(内閣文庫)・清刊本

* また、Harvard-Yenching Library・清康熙(四十年(1701)～六一年(1722))本がある。

(31) (清)黃叔燦『唐詩箋註』卷一(20a)・五言律詩・綦毋潛二首

「題靈隱寺山頂禪院(寺在杭州西河上)」(本文省略)

言寺在山頂、與下界隔絕。塔影孤懸、疑挂清漢。鐘聲發響、如扣白雲。室掩觀空、香焚行道、當西來僧衆之投正人天未曛之候。蓋就題詩時作結也。

「若耶溪逢孔九(在紹興府諸暨縣)」(本文省略)

言若耶溪曲、正烟霞絕勝之地。潭影、崑陰、就相逢時景色言之。而羲皇人世、雞犬仙源、幾非人間風土。末聯因暫爾之相逢、念淹留之久。托「春風滿若耶」、羨孔之獨能領受此烟霞之勝也。

●Harvard-Yenching Library・清乾隆乙酉(三十年(1765))松筠書屋本

また、中国国家図書館・清乾隆三十年松筠書屋刻本(番号なし・『善本書目』)にあり。天津圖書館蔵がある。

(32) (清)趙文哲『媿雅堂詩話』

儲太祝光羲田家詩與摩詰竝稱、嫌質實少味。其他如祖詠、綦母潛、王昌齡、常建等十餘家、皆盛唐之傑出者、而篇什無多、其氣格約與王、孟相近。

●張寅彭『清詩話三編』(全十冊)3-1816(上海古籍出版社、2014年)

(33) (清)管世銘『讀雪山房唐詩序例』五古凡例

以禪喻詩、昔人所詆。然詩境究貴在悟、五言尤然。王維、孟浩然、逸才妙悟、笙磬同音。竝時劉昫、常建、李頎、王昌齡、丘爲、綦母潛、儲光羲之徒、遙相應和、共一宗風。正始之音、于茲爲盛。

●『清詩話續編』3-1545

(34) (清)潘德輿『養一齋詩話』卷八

常建「松際露微月、清光猶爲君」(06856「宿王昌齡隱居」、『全唐詩』卷一四四・4-1454)、劉昫「松色空照水、經聲時有人」(13352「寄閩防」、『同』卷二五六・8-2869)、陶翰「夜來猿鳥靜、鐘梵寒雲中」(06950「宿天竺寺」、『同』卷一四六・4-1475)、李頎「行客暮帆遠、主人庭樹秋」(「題綦母校書別業」、V「綦母潛の交遊資料」(5)参照)、岑參「不見林中僧、微雨潭上來」(09511「終南雲際精舍尋法澄上人遇、歸高冠東潭石淙、望秦嶺微雨、作貽友人」、『同』卷一九八・6-2030)、綦母潛「晚風吹行舟、花路入溪口」(「春泛若耶溪」、王昌齡「遠山落日在、空波微煙收」(「東京府縣諸公與綦母潛李頎相送至白馬寺宿」、V「綦母潛の交遊資料」(12))、崔曙「空色不映水、秋聲多在山」(07536「潁陽東溪懷古」、『同』卷一五五・5-1600)、李嶷「月色徧秋露、竹聲兼夜泉」(06916「林園秋夜作」、『同』卷一四五・4-1466)、萬楚「野聞犬時吠、日暮牛自歸」(06925「題江潮莊壁」、『同』卷一四五・4-1468)、皆曲盡幽閒之趣、每一誦味、煩襟頓滌。乃知盛唐諸公、古詩深造如此。不必儲、王、孟、韋、而後盡物外之妙也。

●『清詩話續編』4-2127

* (清)林昌彝『射鷹樓詩話』卷十(上海古籍出版社、1988年/220)、(清)劉孫仁『肥雲樓詩話』卷六(『清詩話三編』8-5731)に、この条を引く。

(35) (清)馮繼聰『論唐詩絕句』・綦母潛(荊南人。爲右拾遺)

拾遺詩體卓清標、春泛耶溪寄興遙。山頂題詩禪院裏、鐘聲塔影靜山淑。

●郭紹虞等『萬首論詩絕句』(全四冊)3-1106(人民文學出版社、1991年)

(36) (清)謝旻等『江西通志』卷一一九(34a)・藝文・狀、議・國朝・張尙瑗「贛州名宦鄉賢祠議」

綦母潛、以詩鳴唐大歷間。其文翰足以黼藻南邦。世遠年湮、邈乎莫宗。自今舉之、非補亡之盛歟。

●中国国家図書館・清雍正十年(1732)刻本05269・691

(37) (清)王闓運『手批唐詩選』卷一

「春泛若耶溪」

眞景實賦、便成奇句。

●未見。「主要文献」(7)『中華大典』綦母潛・論述・分論(2-174)による。

(38) 『手批唐詩選』卷三

「送鄭務拜伯父」

製題未雅。

「宿太平觀」

有鬼氣。

●同上

(39) (清)王壽昌『小清華園詩談』卷下

唐人佳句、有可以照耀古今、膾炙人口者。如陳拾遺之「古木生雲際、歸帆出霧中」(04451「白帝城懷古」、『全唐詩』卷八四・3-912)、……綦母拾遺之「塔影挂清漢、鐘聲扣白雲」(「題靈隱寺山頂禪院」)、……此等句當與日星河嶽同垂不朽。

●『清詩話續編』3-1898

(40) (清)孫濤『全唐詩話續編』卷下・李頎

「題瑤公山池」云、「遠公遁跡廬山岑、開士幽居祇樹林。片石孤峯窺色相、清池皓月照禪心。指揮如意天花落、坐臥閑房春草深。此外俗塵都不染、惟餘元度得相尋」(06390、『全唐詩』卷一三四・4-1363)。王元美(世貞)曰、「『遠公遁跡廬山岑』、刻本下皆云、『開山幽居』、不惟聲調不諧、抑意義無取。吾弟懋定以爲『開士』甚妙。蓋言昔日遠公遁跡之岑、今爲開士幽居之地。開士見佛書」。茲案、綦母潛云、「開士度人久、空巖花霧深」(「題招隱寺絢公房」)。郎士元云、「高僧本姓竺、開士舊名林」(12964「赴無錫別靈一上人」、『全唐詩』卷二四八・8-2788)。益信唐人每多用此。

●『清詩話』下-662

(41) (清)闕名『靜居緒言』

詩有一語不失正鵠不少嫌、左右逢源不嫌多。蓋其志各趨、其造同得也。綦母潛、祖詠、丘爲、張子容、盧象、裴迪、皆語質實有味。要爲孟亭、輞川中人、所謂不嫌少者也。

●『清詩話續編』3-1637

VIII 地理書

(1) (宋)范成大『吳郡志』卷三一・府郭寺

龍興寺。在吳縣西南。梁所置。紹興間、於官倉瓦礫中得房瑄所作寺碑。韋夏卿再立者。唐金紫光祿大夫、守吏部尚書、同中書門下平章事、清河公房瑄寺碑序。祕書省校書郎綦母潛銘。……戊寅(貞元十四年(798))歲、刺史給事中京兆韋公夏卿言念、棟宇修復、碑紀起廢。爰獲舊文、重此刻立。時十四年又十月十五日建。東海徐知古書、前守揚州高郵縣尉沈寧篆額。

●江蘇古籍出版社、1986年/464

(2) (宋)祝穆『方輿勝覽』卷一・浙西路・臨安府・佛寺

天竺寺。在北山。……綦母潛詩(「登天竺寺」。本文省略)。

●中華書局、2003年/全三冊・上-15

(3) 『方輿勝覽』卷三・浙西路・鎮江府・寺院

鶴林寺。在黃鶴山。……綦母潛「鶴林寺」詩(本文省略)。

●同上・上-65

(4) (明)王鏊等『姑蘇志』卷二九(19b)・寺觀上

龍興寺。在吳縣治西。……吳地記云、「則天后置御書額。開元五年、再興。刺史張廷珪模勒御書于碑」。然房瑄所撰碑、與此不同。今載之。唐金紫光祿大夫、守吏部尚書、同中書門下平章事、清河公房瑄寺碑序。祕書省校書郎綦母潛銘。……戊寅歲、刺史給事中京兆韋公夏卿言念、棟宇修復、碑紀起廢。爰獲舊文、重此刻立。時十四年又十月十五日建。東海徐知古書、前守揚州高郵縣尉沈寧篆額。綦母潛「宿龍興寺」詩(本文省略)。

●国立公文書館(内閣文庫)・明正徳元年(1506)序刊本

*また、Harvard-Yenching Library・明正徳元年刊・嘉靖(1522~1566)増修本、中国国家図書館・明正徳(1506~1521)刻本10609・574がある。

(5) (清)田文鏡等『河南通志』卷五十(28a)・寺觀・南陽府

棲霞寺。舊在南召縣城西北四十里丹霞山。即唐丹霞禪師修真之地。……唐綦母潛詩(「題棲霞寺」。本文省略)。

●文淵閣四庫全書本

(6) (清)沈翼機等『敕修浙江通志』卷十五(21a)・山川七・紹興府

若耶溪。明一統志、「在府城南二十里、與鏡湖合。……」。……綦母潛「春汎耶溪」詩(本文省略)。

●国立公文書館(内閣文庫)・清乾隆元年(1736)序刊本

*また中国国家図書館・清乾隆元年刻本(地240/33。『善本書目』666・667の『〔雍正〕浙江通志』0169・05332

か?)がある。

- (7)『嘉慶重修大清一統志』卷九一(3a)・鎮江府二・古蹟
莊城。在金壇縣西北天荒蕩東北。唐碁母潛有「送儲十二還莊城」詩。
●四部叢刊續編・清史館藏進呈寫本影印(商務印書館、1934年)

Ⅷ 碁母潛詩への和韻詩(次韻詩)

- (1) (元)趙孟頫『松雪齋文集』卷四(6a)・律詩・「大都遇平江龍興寺僧閒上座、話唐碁母潛宿龍興寺詩、因次其韻」
聞說龍興寺、多年未款扉。風林發松籟、雨砌長苔衣。殿古燈光定、房深磬韻微。秋風動歸興、一錫向空飛。
●四部叢刊67-40・元沈伯玉刻本影印
- (2) (元)虞集『道園遺藁』卷二(25a)・律詩五言・「用唐碁母著作韻、送閒白雲長老還吳」
凌空一錫歸、幾日到禪扉。野橘陰垂戶、天花影上衣。井床春露淨、檐鐸午風微。三藏都看徧、相思夢欲飛。
●中国国家図書館・清影元抄本A00640・2265
- (3)『道園遺藁』卷二(25a)・律詩五言・「重用韻、贈閒白上人」
歷歷唐朝寺、松關幾易扉。花交珠樹網、苔長石人衣。秋水依空淨、浮雲映日微。白雲無所住、此際亦歸飛。
●同上
- (4) (元)釋善住『谷響集』卷一(1b)・五言律詩・「龍興寺用唐碁母潛韻」
微額唐朝賜、還將表寺扉。塵侵碑上字、風落樹間衣。僧燭晝焰短、刹旛晴影微。靈鳥因得食、時竝畫檐飛。
●文淵閣四庫全書本
- (5) (元)汪澤民・張師愚『宛陵羣英集』卷六(5a)・今體五言律・元・汪澤民「游龍興寺、和碁母潛著作韻」
古寺依城市、幽尋一扣扉。劫餘房相石、世授祖師衣(原註。寺有唐碑房相國製文。徐挹古八分書。又有屈陶布二十五條大衣。宋紹興然上人所受于祖師者。蓋南渡以前物也)。金像爐烟暗、祇園樹影微。蠶塵暫時遠、闐闐馬如飛。
●文淵閣四庫全書本
- (6) (元)陳植『慎獨叟遺稿』(5b)・「次碁母潛龍興寺詩韻」
先朝黃葉寺、老屋白雲扉。燈續長明火、僧猶壞色衣。馱經馬迹遠、念佛鳥聲微。唯有閑閑叟、坐看紅日飛。
●文淵閣四庫全書本
- (7) (元)倪瓚『清閼閣全集』卷三(4a)・五言律詩・「次唐碁母潛宿龍興寺詩韻、寄方厓」
無家何處歸、南渚有禪扉。湘簟閒秋水、風(一作池)蓮墮粉(一作羽)衣。硯池滋黯黯、竹露淨微微。社(一作秋)燕情如客、攬君去槩飛。
●中国国家図書館・清康熙五二年(1713)曹氏城書室刻本17152・2294
- (8) (明)虞堪『希澹園詩集』卷二(4a)・近體五言・「用唐碁母著作留題龍興寺詩韻、贈長老閒公白雲」
西蜀竟忘歸、東林自掩扉。百年純白髮、獨著舊緇衣。閱藏心源淨、安禪鼻息微。天花如雨下、無箇著空飛。
●文淵閣四庫全書本

X 碁母潛研究文献目録

- ①本項目は、碁母潛に関する研究文献の目録である。
- ②文献は、発表年順に配列する。
- ③この項目では「碁母潛」と表記する。

- (1) 碁母潛生平事迹考辨 傅如一 (中国社会科学院)中国社会科学1984-4 1984年
- (2) 碁母潛生平考辨 劉珈珈 江西教育学院学报(綜合版)1989-3 1989年
- (3) 鍾紹京、碁母潛事略及其对江西文化史之意義 劉珈珈 贛南師範学院学报1990-5 1990年

- (4)唐人綦母潜生平中幾箇問題的考辨 蔣方 湖北大学学报(哲学社会科学版)1990-4 1990年
- (5)綦母潜里貫贛州辨 劉孔伏 文学遺產1992-3 1992年
- (6)唐詩人李昂、綦母潜、王仁裕生平補考 陳尚君 鐵道師院学报(社会科学版)1993-4 1993年
- (7)從星象探討綦母潜<春泛若耶溪>「際夜」积意 邱永昌 (福建省天文学会)第六届海峡两岸天文推展教育研討会論文集 2004年
- (8)開元“綦母学士”為誰 熊飛 (教育部全国高等院校古籍整理研究工作委員會)中国典籍与文化2006-3 2006年
- (9)綦母潜仕歷年代的兩点質疑—兼陳鉄民、陶敏先生商榷 隋秀玲 鄭州大学学报(哲学社会科学版)2006-2 2006年
- (10)張九齡詩中綦母学士考証 張寧 (安徽省文聯)安徽文学2007-12 2007年
- (11)清回拔俗处 摩詰一路人—盛唐江西詩人綦母潜創作研究 劉惠芳 (吉林省作家協會)作家2010-5 2010年
- (12)盛唐前期王湾、祖詠、崔曙与綦母潜及劉昫虚合論 魏景波·魏耕源 福州大学学报(哲学社会科学版) 2011-2 2011年
- (13)《寄綦母三》詩非為綦母潜赴宜寿尉作 隋秀玲 (吉林省文聯)短編小說(原創版)2013-6 2013年
- (14)綦母潜及其詩歌創作研究 蔣玲玲 上海師範大学碩士論文 2013年
- (15)王維 送綦母秘書棄官還江東 筆者未詳 (中華書局)中華活頁文選(高二、高三年級)2014-5 2014年
- (16)說王維《送綦母潜落第還鄉》 蔣寅 (太原)名作欣賞2018-9 2018年
- (17)綦母潜与潘大臨詩歌之比較 鄧夢園 黃岡職業技術学院学报2019-1 2019年
- (18)王維《送綦母潜落第還鄉》範讀 蔣寅 (華南師範大学)語文月刊2021-7 2021年
- (19)幽意綿綿無絕期—賞綦母潜《春泛若耶溪》 彭媛媛 (江西教育传媒集团·江西教育考試院)高中生之友 2021-10 2021年
- (20)論綦母潜詩歌的芸術風格 李倩 湖北經濟学院学报(人文社会科学版)2021-2 2021年
- (21)綦母潜:清麗典雅,恬淡適然 程応峰 (中華書局)月讀2023-5 2023年

(中国文学)

Basic Material for the Study of Qiwu Qian 綦母潛

Yoshiharu Kawaguchi
(Chinese Literature)

Abstract

This article provides basic material for the study of Qiwu Qian, a poet of the High Tang.

In addition to the Explanatory Notes, this article has been divided into the following sections: I “Main books and websites used in preparing this article,” II “Qiwu Qian’s poems,” III “Qiwu Qian’s prose,” IV “Biographical material about Qiwu Qian,” V “Material about Qiwu Qian’s acquaintances,” VI “*Zhulu* (here, records of Qiwu Qian’s anthologies, including individual poems),” VII “*Shihua* (here, discourse on poetry and the like that include references to Qiwu Qian and his poems),” VIII “Geographical works (here, works referring to place-names mentioned in Qiwu Qian’s poems and prose),” IX “*Heyinshi* (*Ciyinshi*) in response to Qiwu Qian’s poems (poems composed by other poets to match the rhyme [or rhyme characters] of Qiwu Qian’s poems),” and X “Bibliography of research on Qiwu Qian.”